

やってみよう 清須のおいしい物語

清須食育プラン 2018

— 第2次清須市食育推進計画 —

平成26年度～平成30年度



清 須 市

はじめに



食育とは、私たちが生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものです。

しかし、近年では、人々のライフスタイルの変化や価値観の多様化が進み、食を取り巻く環境は大きく変化してきました。食べたい物は、いつでもどこでも食べることができる便利な社会になってきました。夏に大根を食べたり冬にスイカを食べることができます。今ではお正月からスーパーマーケットが営業しています。

本当に便利になったと感じる一方で、生活様式の多様化から不規則な生活による食生活の乱れ、栄養バランスの偏りなどから肥満や生活習慣病の増加などさまざまな問題が起きています。

本市では、こうした問題に対応するため、平成21年3月に第1次清須市食育推進計画を策定し、10月1日の春日町との合併を機に市役所市民環境部産業課内に「食育推進係」を設置しました。その後、保育園、幼稚園、小中学校、そして、各種団体、生産者、消費者等と連携し、「食育まつり」等の市民協働の各種食育事業を展開してきたところです。

このたび、第1次清須市食育推進計画の計画期間満了に伴い、これまで行ってきた食育事業を検証するとともに、引き続き食育を推進するため、「やってみよう 清須のおいしい物語」を新しいタイトルとする「第2次清須市食育推進計画」を策定しました。今後、この計画に基づき、平成26年度から平成30年度までの5年間、引き続き食育を推進してまいります。

この計画策定にあたり、清須市食育推進会議の委員のみなさんには本当に真摯にご議論いただくとともに、多くの市民のみなさんにはアンケート等のご協力をいただき、貴重なご意見を数多くお寄せいただきました。この場をお借りして改めて感謝申し上げるとともに、今後も市民協働の食育推進にご理解ご協力をお願い申し上げ、計画策定にあたってのあいさつとさせていただきます。

平成26年3月

清須市長 加藤 静 治

目 次

第1章 計画策定の背景・位置づけ	
1 計画策定の背景	1
2 計画の位置づけ	2
3 計画の期間	2
第2章 アンケート結果から見える現状と課題	
1 アンケートの概要	3
2 アンケートの結果	4
3 寄せられたご意見	17
4 検証と課題	19
第3章 計画の基本的な考え方	
1 基本理念	25
2 計画のめざす姿	25
3 取り組みの柱と基本施策	26
第4章 目標指標	
1 市民全体	27
2 小学生	29
3 中学生	30
第5章 食育推進に関する取り組み	
1 食生活改善推進員連絡協議会	31
2 西枇杷島小学校	32
3 春日中学校	33
4 女性の会	34
5 保育園	35
6 西春日井生活改善実行グループ	37
7 保育園・幼稚園給食センター	38
8 学校給食センター	39
9 健康推進課	41
10 産業課（特産物振興委員会）	42
第6章 協働による清須市食育推進の輪	44
【資料編】	
第2次清須市食育推進計画策定に至るまでの経過	46
食育推進会議委員名簿	47
あとがき（清須市食育推進会議会長）	48

第1章 計画策定の背景・位置づけ

1 計画策定の背景

食育とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることであり、生きる上での基本であって、教育の三本柱である知育、徳育及び体育の基礎となるべきものとして位置づけられています。

国は、「国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむ」ことを目的に、平成17年6月に「食育基本法」を制定、平成18年3月には「食育推進基本計画」を策定し、国民運動として食育に取り組んできました。また、愛知県においても食育基本法の理念にのっとり、「県民の健康で文化的な生活と豊かで活力ある社会の実現」を食育の方向とする「あいち食育いきいきプラン（愛知県食育推進計画）」が平成18年11月に策定され、食育を推進してきました。

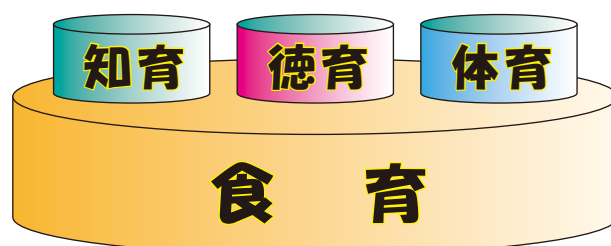
清須市においても平成21年3月に清須市食育推進計画を策定し、「はじめよう清須のおいしい物語」をスローガンに、清須市食育会議メンバーや関係団体、市民と協働で「食育まつり」、「地産地消給食」、「特産野菜栽培収穫体験」等、各種食育事業を推進してきたところです。

その結果、清須市では、市民の方々の食育に対する関心は高まり、「食育」、「地産地消」ということばの認知度も上がりました。毎日朝食を食べる人、運動をしている人の割合も微増傾向にあります。

しかしながら、依然として食習慣の乱れや生活習慣病の増加、食の安全性の問題、食に関する情報の氾濫など、食にまつわる様々な課題が山積みしており、より一層の食育による対応が求められています。

一方、国においては「生涯食育社会」の構築をめざして、平成23年度から平成27年度を計画期間とする第2次食育推進基本計画が策定され、愛知県においても、「啓発から実践へ」を基本コンセプトとするあいち食育いきいきプラン2015（第2次愛知県食育推進計画）が平成23年度に策定されました。

こうしたことから、清須市においても、国や県の動きをふまえ、清須市食育推進計画（第1次計画）を評価、検証し、食育を総合的、計画的に強化推進することをめざして、平成23年3月22日に清須市食育推進会議を新メンバーで発足、さまざまな議論を経て「第2次清須市食育推進計画」を策定しました。



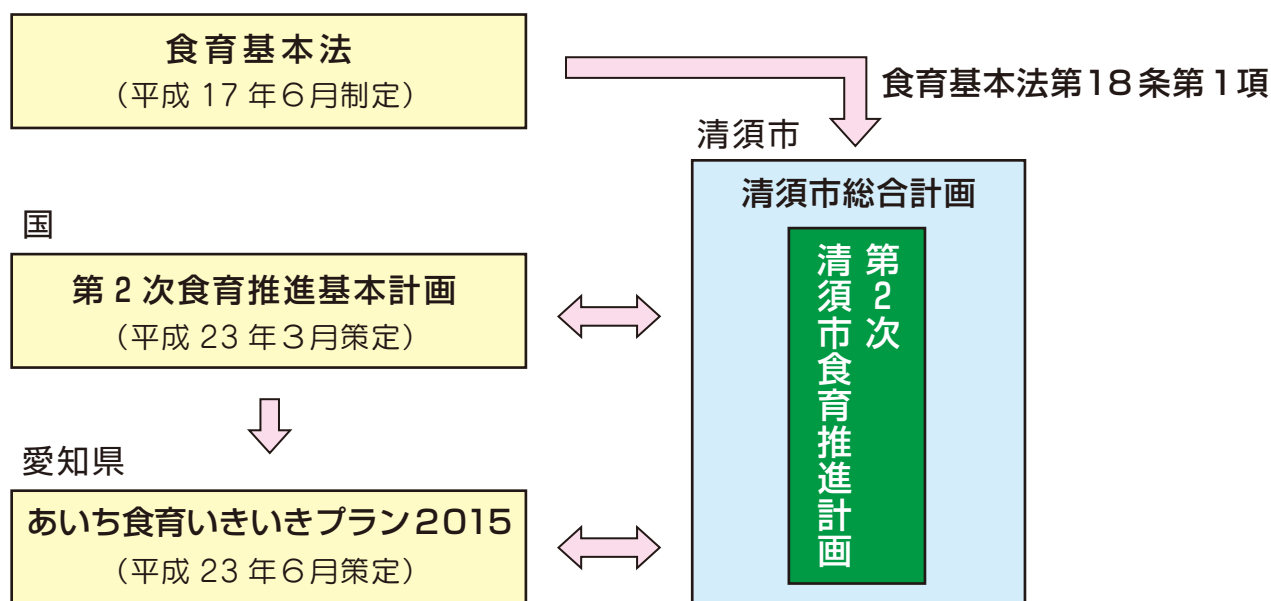
2 計画の位置づけ

本計画は、食育基本法の目的・基本理念をふまえ、同法第 18 条第 1 項に基づく市町村食育推進計画として位置づけます。

この計画は、国の定める「第 2 次食育推進基本計画」のコンセプト「周知」から「実践」へを基本とし、愛知県の定める「あいち食育いきいきプラン 2015」でうたわれているように県民一人ひとりが食の大切さを理解して、主体的に食育に取り組むための指針となるべきものです。

清須市として、食育に関する基本的な考え方を示し、具体的な取り組みや指標を掲げて、関係施策を総合的かつ計画的に推進していくために必要な事項を定め、行政はもとより、市民、それを取り巻く地域、団体等がそれぞれ役割に応じて連携協議して主体的に食育に取り組んでいくための基本とします。

なお、市の上位計画である「第 2 次清須市総合計画」や関連計画とは、整合性を図りながら食育に関する取り組みを実施していくものとします。



3 計画の期間

本計画の期間は、平成 26 年度から平成 30 年度までの 5 年度間とし、計画期間中に状況の変化等が生じた場合には、必要に応じて見直すこととします。

平成 26 年度 ~ 平成 30 年度

第2章 アンケート結果から見える現状と課題

1 アンケートの概要

第2次清須市食育推進計画を策定するにあたり、市民の食育に関する意識について、前回調査（平成19年度）からどのように変わったかを把握するため、下記のとおり「食育に関するアンケート」を実施しました。

(1) 調査対象者

- ① 市内の保育園・幼稚園児の保護者及び小学校5年生、中学校2年生の保護者
- ② 小学5年生児童
- ③ 中学2年生生徒

(2) 対象者

- ① 保護者 2,993名

内訳

市立幼稚園	市立保育園	小学5年生	中学2年生
288名	1,547名	598名	560名

- ② 小学5年生 598名
- ③ 中学2年生 566名

(3) 調査期間

平成25年6月5日（水）～平成25年6月28日（金）

(4) 調査方法

園、学校を通じた配布・回収

(5) 回収数

回収数 3,772名（回収率 90.7%）

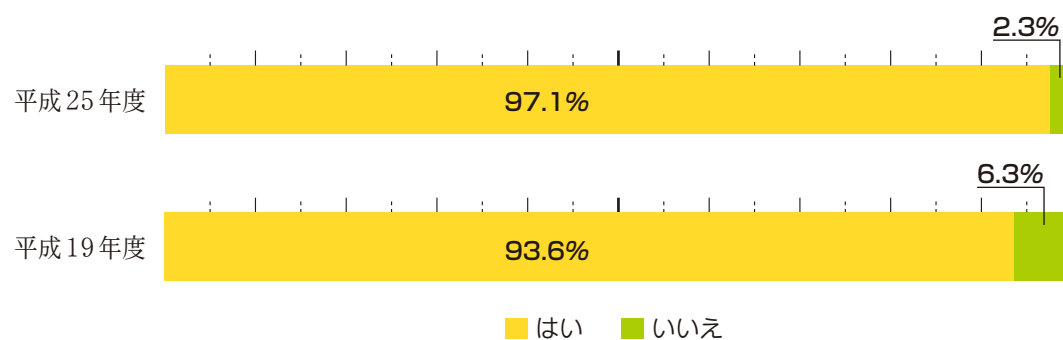
(6) 結果等の見方

回答結果の単位「%」は有効サンプル数に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入しました。無回答、複数回答はそのまま集計したため、合計値が100.0%にならない場合があります。

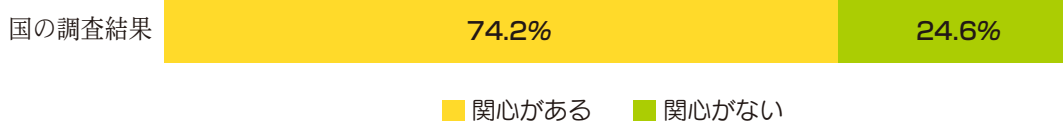
2 アンケートの結果

保護者：日常の食生活についての意識

① 食育ということばを知っていますか？



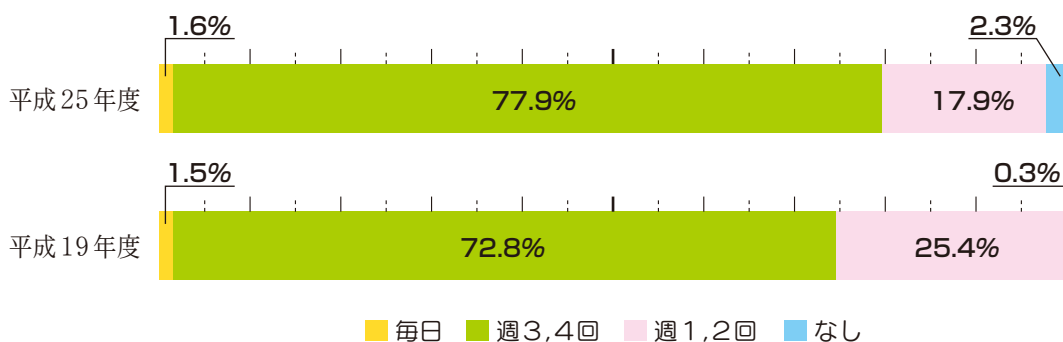
参考：食育に関心を持っていますか？ (平成24年12月 内閣府「食育に関する意識調査」より)



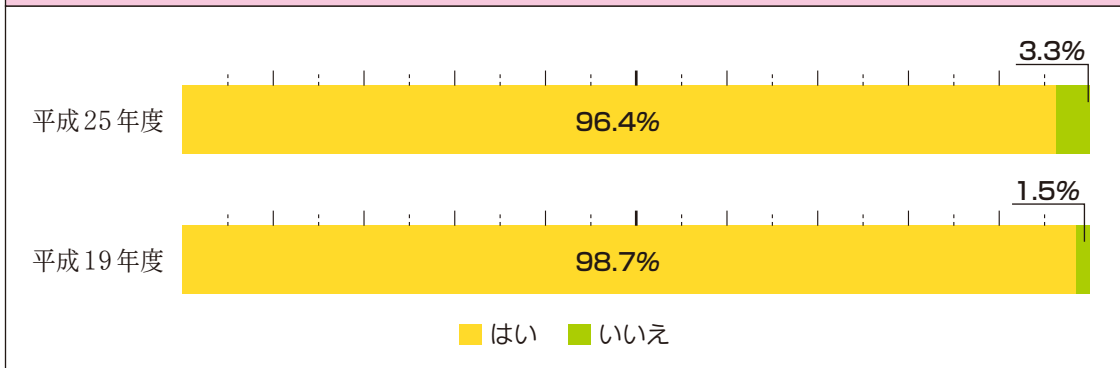
② バランスのとれた食事をとっていますか？



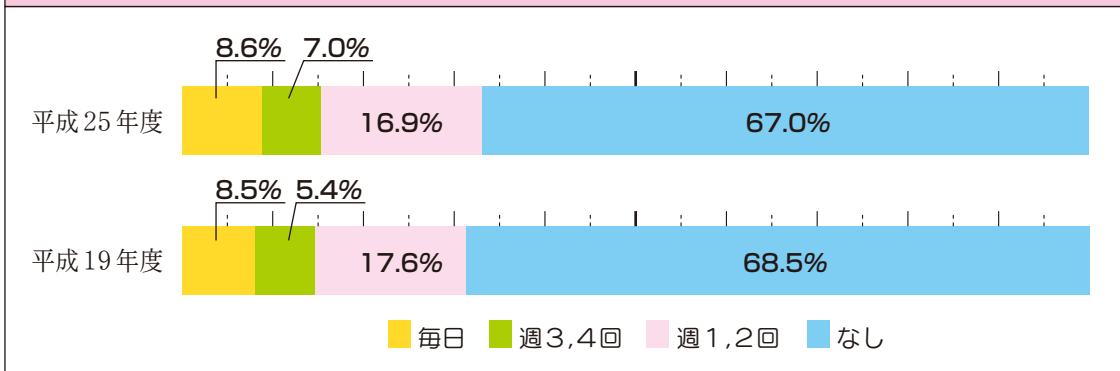
③ 中食（スーパーの惣菜、弁当）や外食を利用しますか？



④ 「内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)」という言葉を知っていますか？

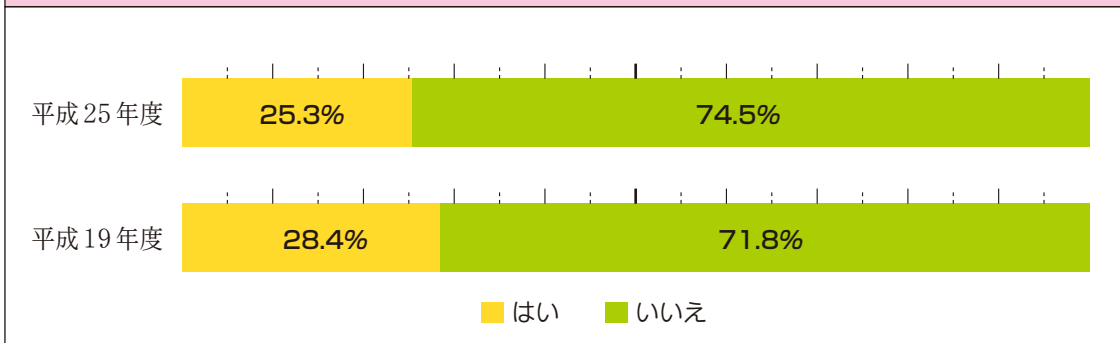


⑤ 定期的に運動をしていますか？

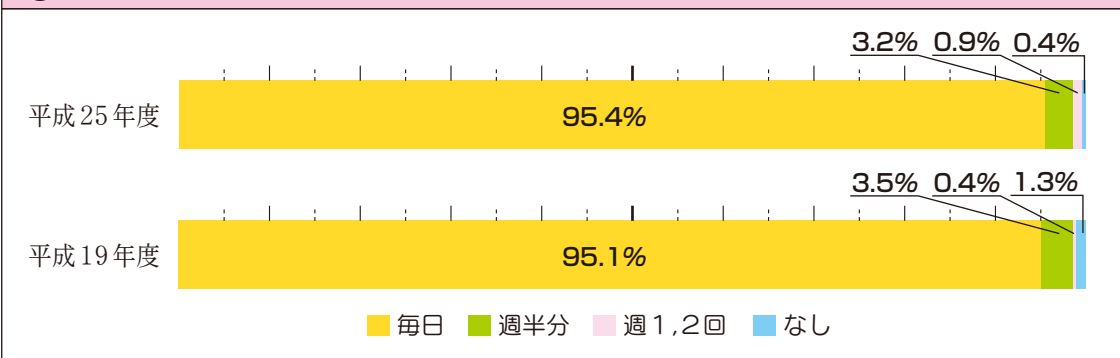


保護者：家族の朝食に関する意識

⑥ 家族の中で朝食をとっていない人はいますか？

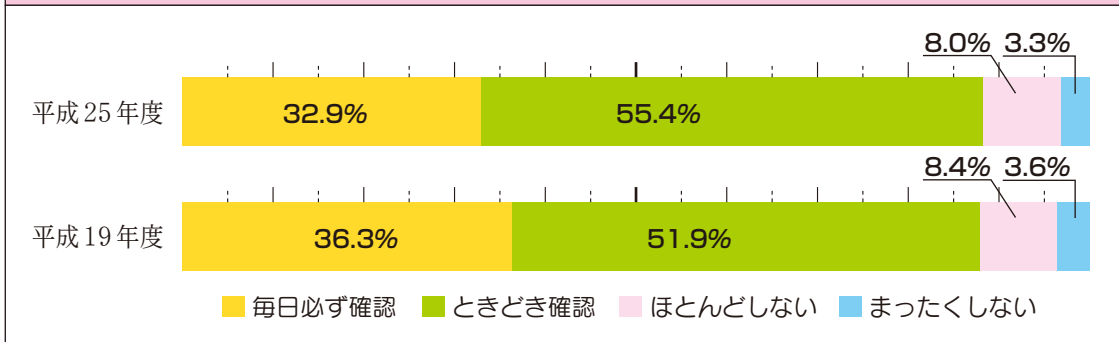


⑦ お子さんは、朝食をとっていますか？

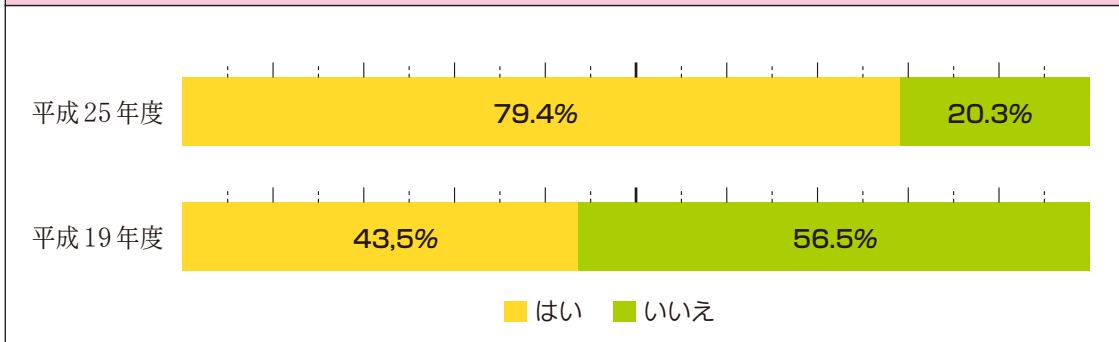


保護者：地産地消に関する意識・態度

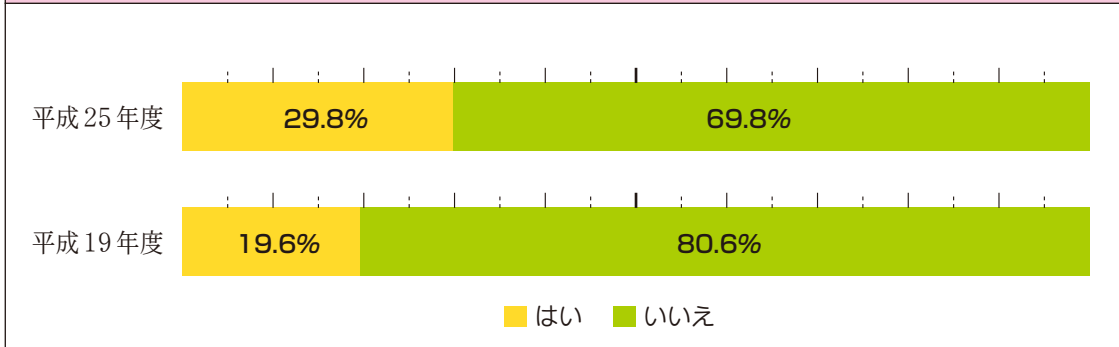
⑧ 食料品を購入するとき、原産地表示や添加物、品質の表示を確認していますか？



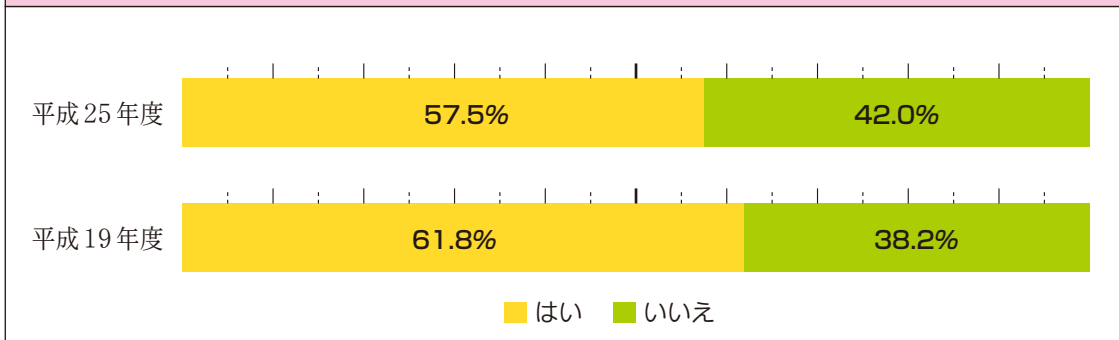
⑨ 「地産地消」という言葉を聞いたことがありますか？



⑩ 愛知県産の農産物を選んで購入していますか？

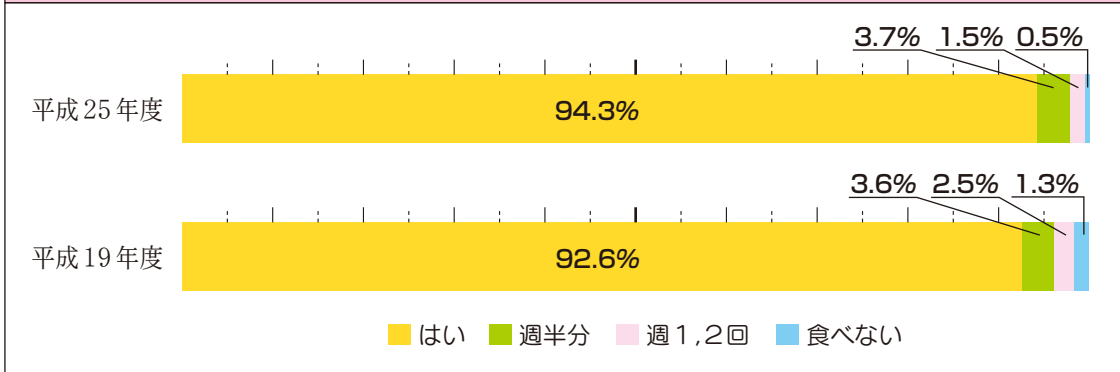


⑪ お子さんに田植えや稲刈り、いも掘りなどの農作業の体験をさせたことがありますか？

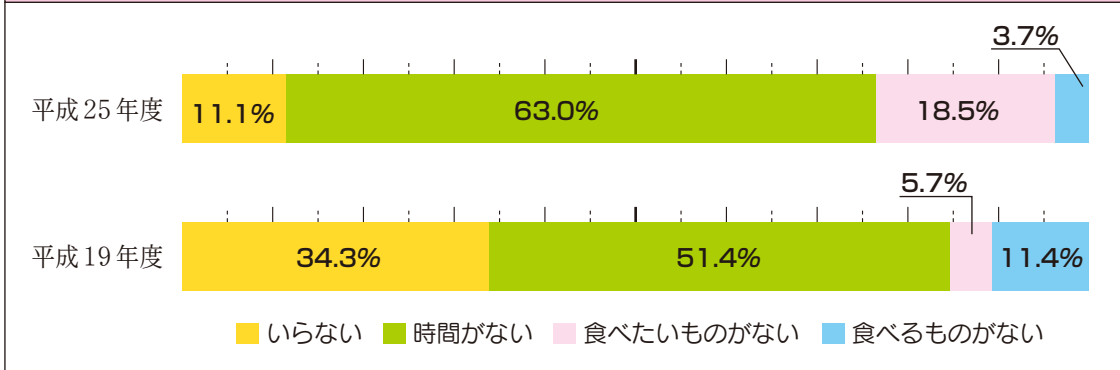


小学5年生：朝食・共食の現状・意識

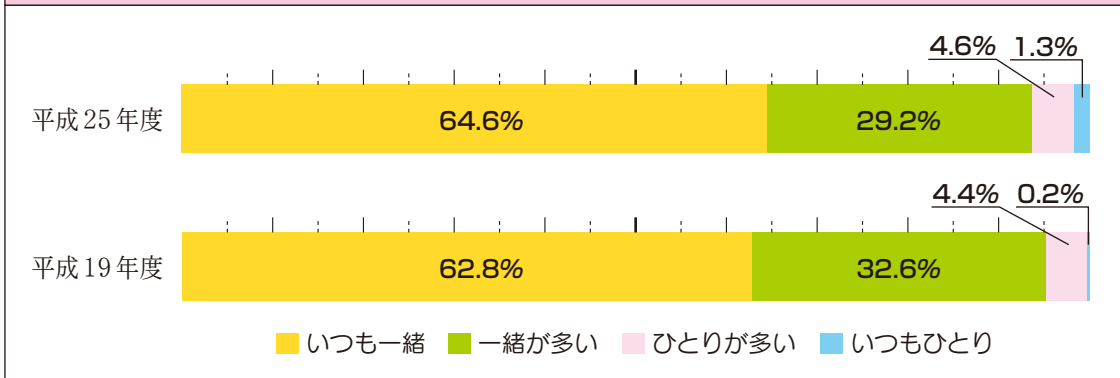
① 朝食をとっていますか？



② 朝食をとらない理由はなんですか？



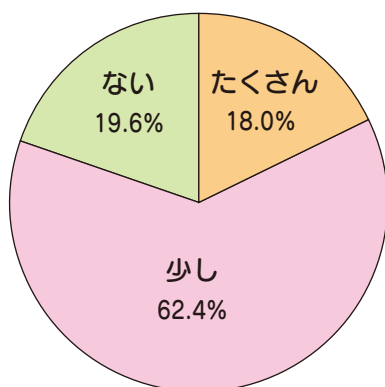
③ 家族の人といっしょに食事をとっていますか？（共食の頻度）



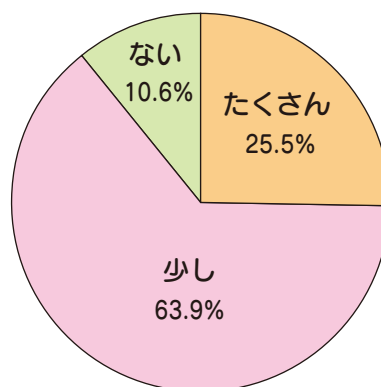
共食の頻度と他の質問との関係

「家族の人と一緒に食事をとっていますか？」との質問に対し「いつも一緒」と答えた児童を「いつも一緒にとっている群」とし、それ以外の回答（一緒が多い、ひとりが多い、いつもひとり）とした児童を「その他の群」として他の質問との関係を調べてみました。

きれいな食べ物がありますか？

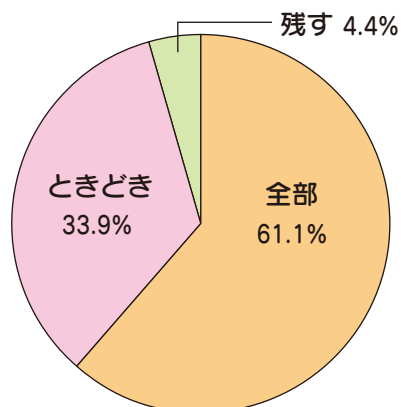


いつも一緒にとっている群 (64.6%)

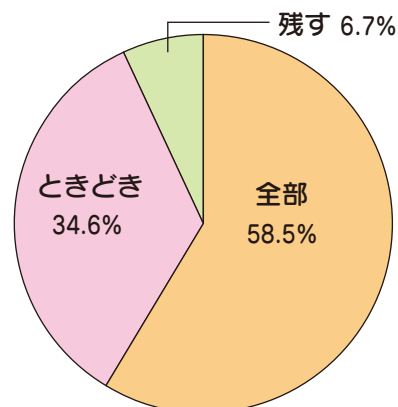


その他の群 (35.1%)

給食は全部食べますか？

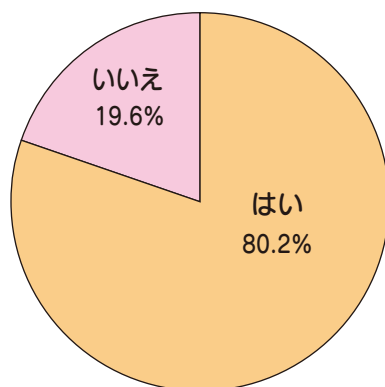


いつも一緒にとっている群 (64.6%)

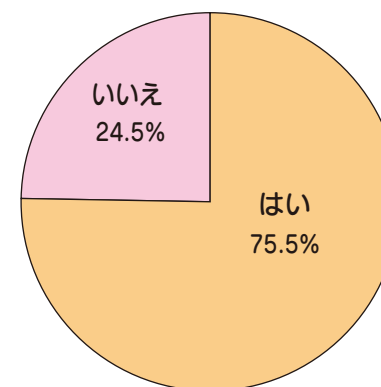


その他の群 (35.1%)

田植えや稲刈り、いも掘り等の農作業の経験がありますか？



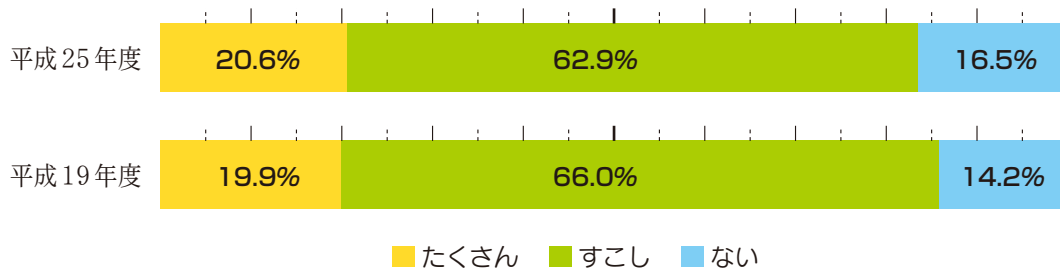
いつも一緒にとっている群 (64.6%)



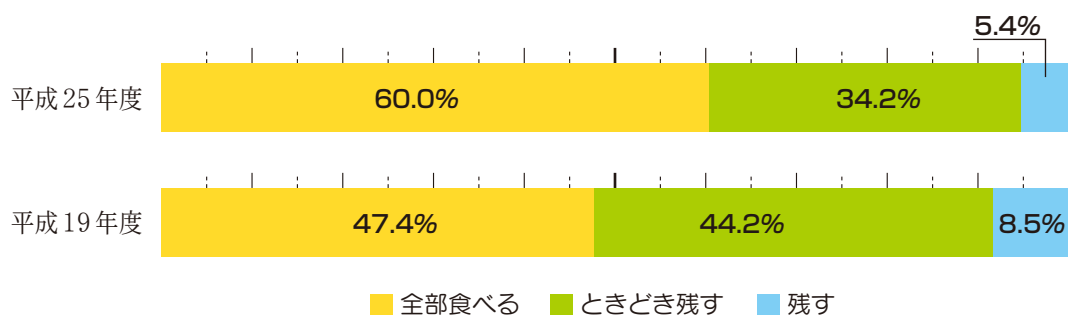
その他の群 (35.1%)

小学 5 年生：食に関する意識・態度

④ きらいな食べ物はありますか？



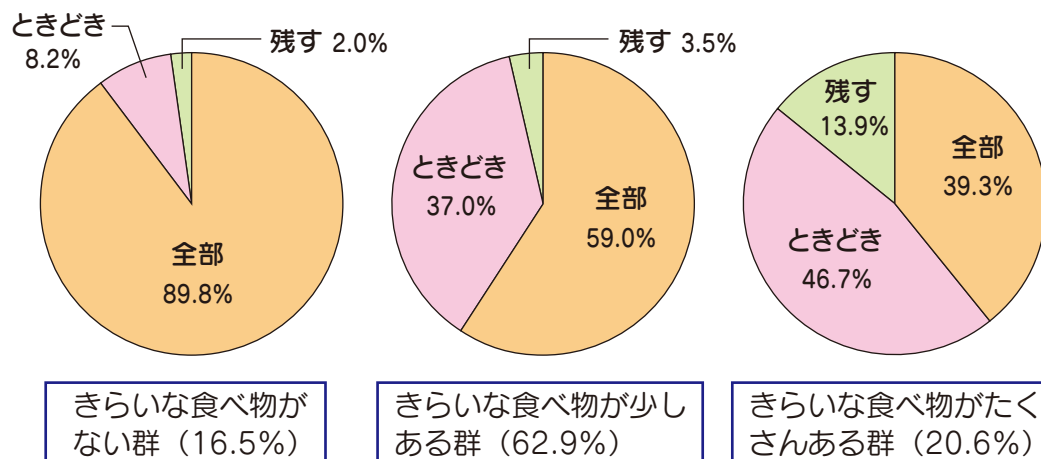
⑤ 給食は全部食べますか？



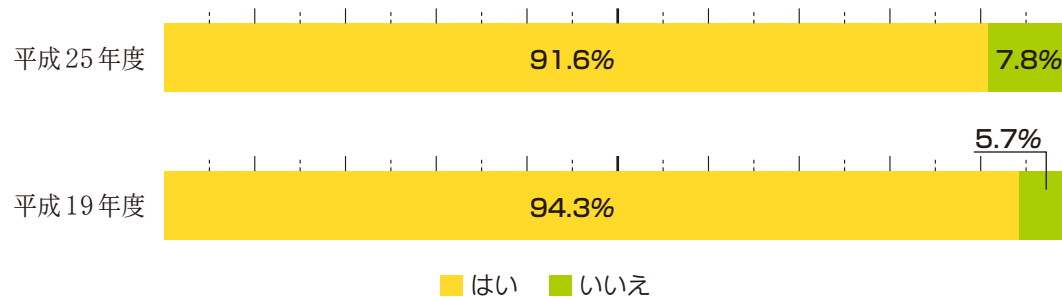
好き嫌いとう給食を全部食べる児童との関係

「きらいな食べ物はありますか？」との質問に対し「ない」と答えた児童を「きらいな食べ物がない群」とし、「少し」と答えた児童を「きらいな食べ物がある群」、「たくさん」と答えた児童を「きらいな食べ物がたくさんある群」として、それぞれの群ごとに「給食を全部食べる割合」を調べてみました。

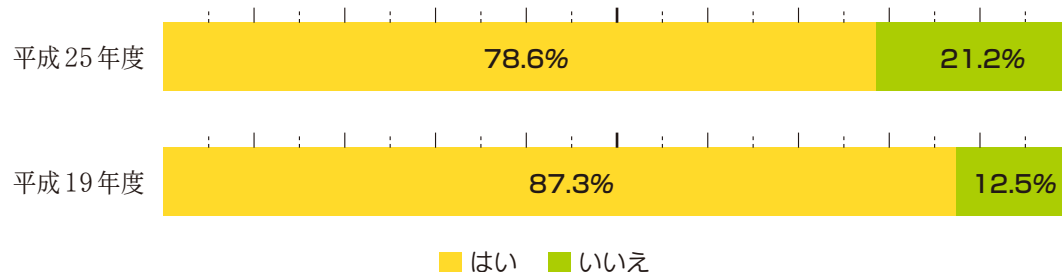
給食は全部食べますか？



⑥ 畑や田んぼで野菜や稲が育っているのを見たことがありますか？



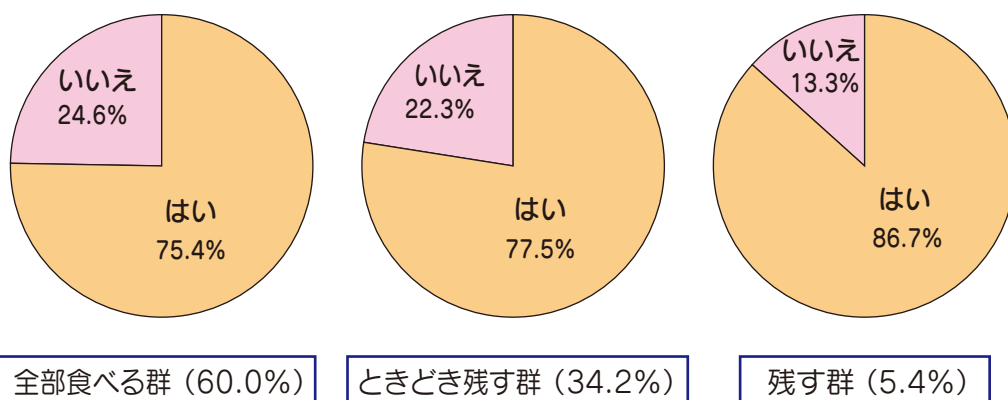
⑦ 田植えや稲刈り、いも掘り等の農作業の経験がありますか？



給食の喫食と農作業経験の関係

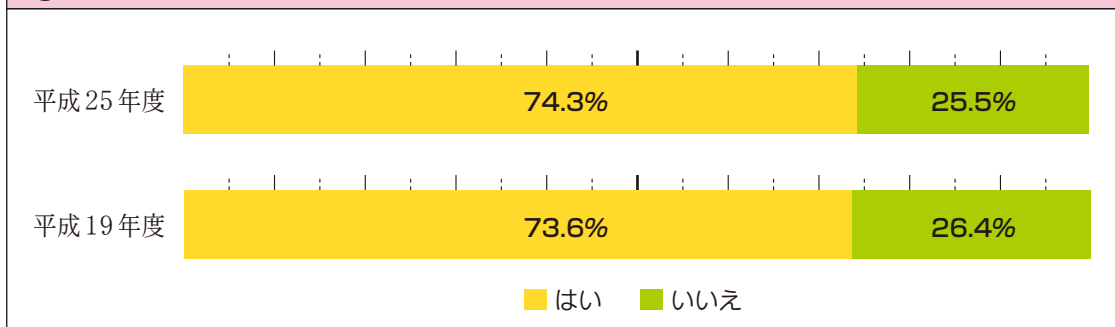
「給食は全部食べますか？」との質問に対し「全部食べる」と答えた児童を「全部食べる群」とし、「ときどき残す」と答えた児童を「ときどき残す群」、「残す」と答えた児童を「残す群」として、農作業の経験との関係調べてみました。

農作業の経験はありますか？

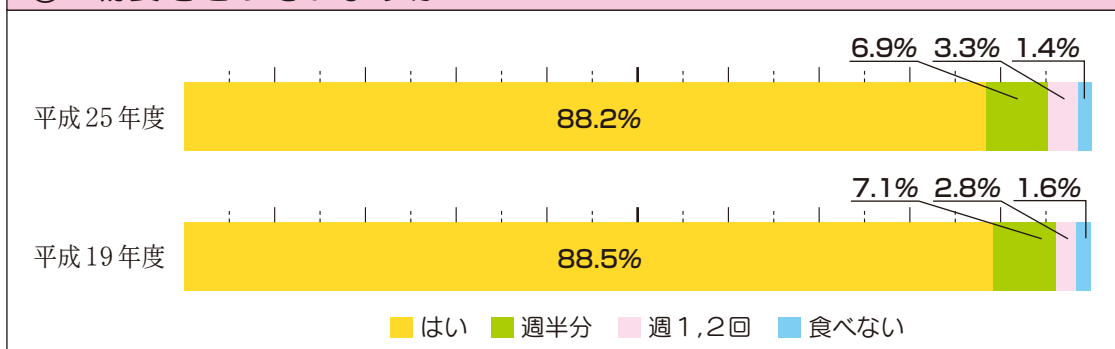


中学2年生：食に関する意識・態度

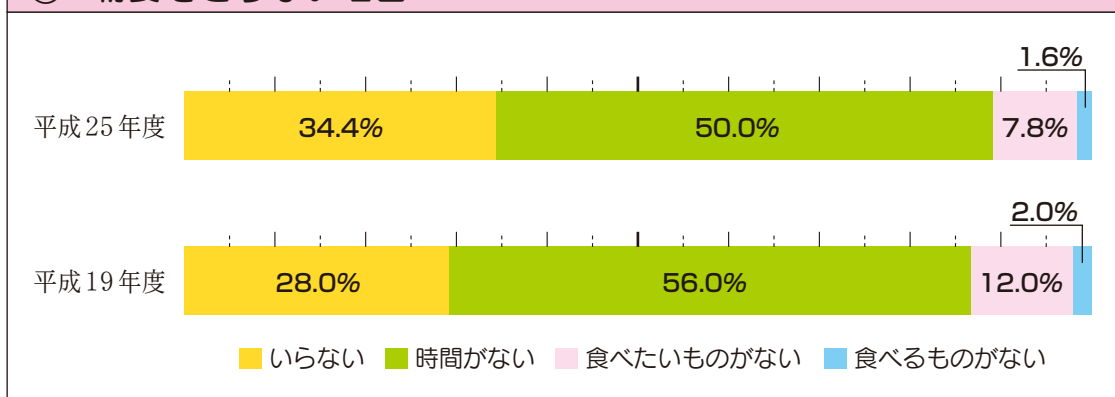
① 食育ということばを知っていますか？



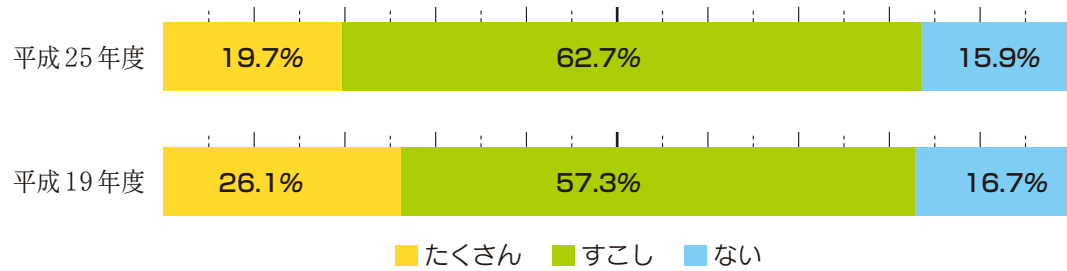
② 朝食をとっていますか？



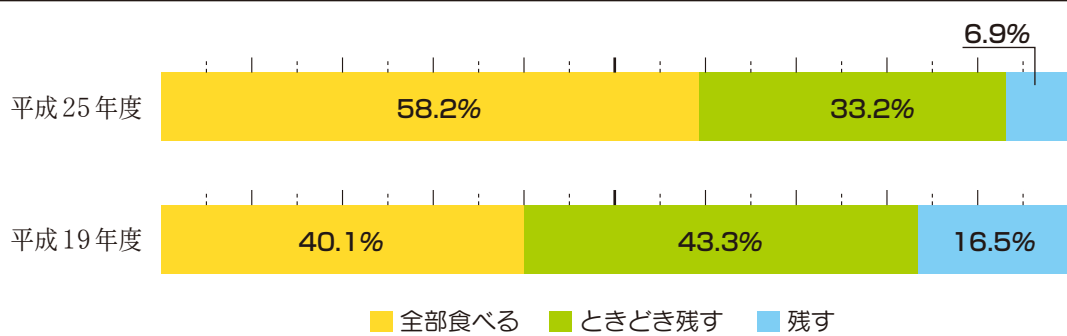
③ 朝食をとらない理由



④ きらいな食べ物がありますか？



⑤ 給食は全部食べますか？



いろいろな「コショク」

コラム①

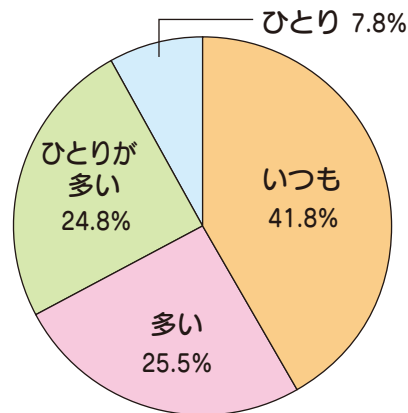
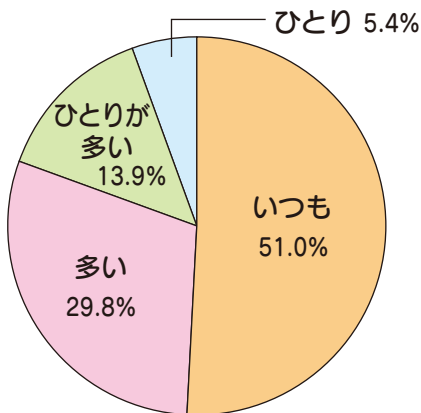
- 孤食・・・ひとりで食事をする事
- 個食・・・家族がそれぞれ自分の好きな物を食べる事
- 固食・・・自分の好きな決まった物しか食べない事
- 小食・・・いつも食欲がなく、食べる量も少ない事
- 粉食・・・粉製品を主食として好んで食べる事
- 濃食・・・味の濃い物を好んで食べる事

これらは、すべて「コショク」と読みますが、意味はそれぞれ異なります。現代の食生活においていろいろと問題視されている「コショク」の解消には、食事面だけでなく人と人のコミュニケーションづくりが重要と考えられます。

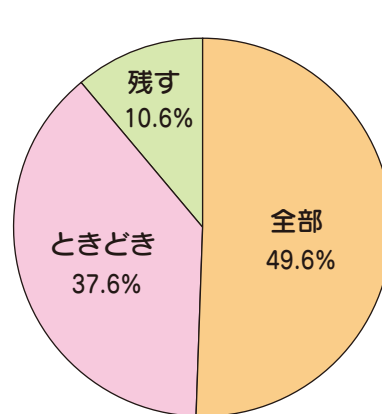
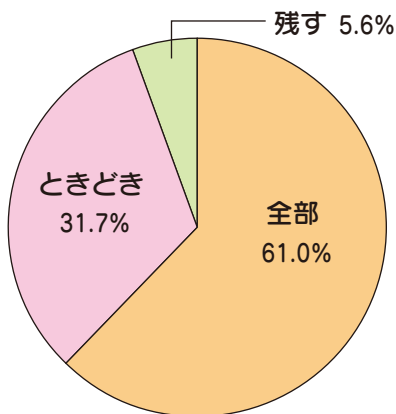
食育ということばの認識と他の項目との関係

「食育ということばを知っていますか？」との質問に対し、「はい」と答えた生徒を「知っている群」、「いいえ」と答えた生徒を「知らない群」に分けて他の質問との関係を調べてみました。

家族の人といっしょに食事をしていますか？



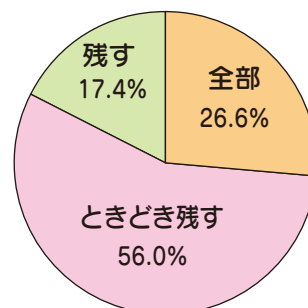
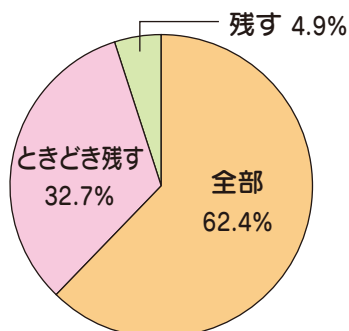
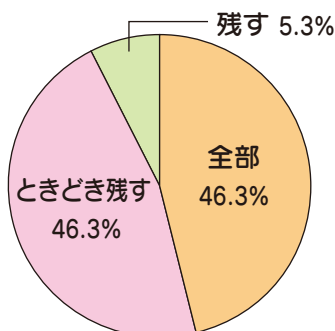
給食は全部食べますか？



好き嫌いとう給食喫食の関係

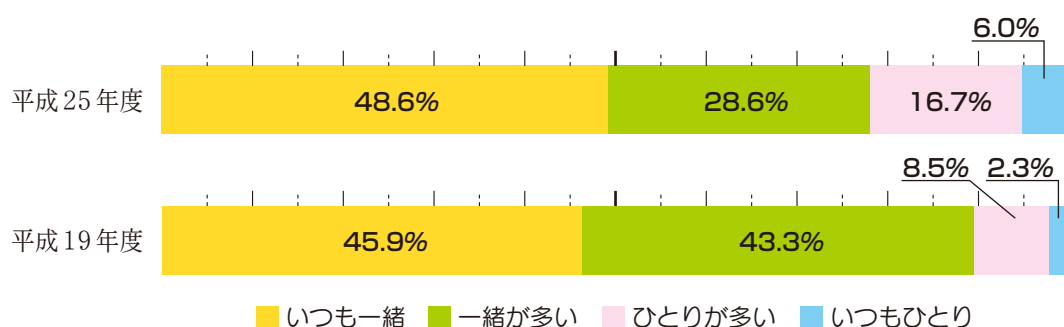
「きれいな食べ物がありますか？」との質問に対し「ない」と答えた生徒を「きれいな食べ物がない群」、「少し」と答えた生徒を「きれいな食べ物がある群」、「たくさん」と答えた生徒を「きれいな食べ物がたくさんある群」として、それぞれの群ごとに「給食を全部食べる割合」を調べてみました。

給食は全部食べますか？



中学2年生：共食の現状・意識

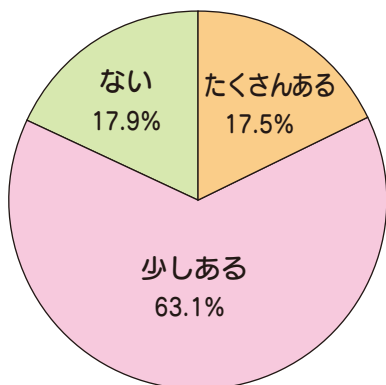
⑥ 家族の人といっしょに食事をとっていますか？



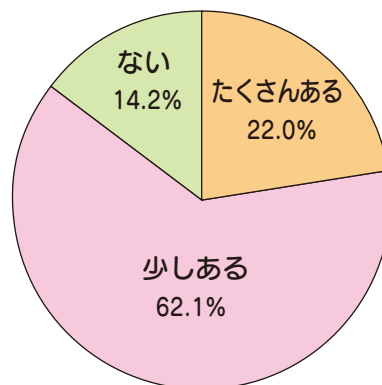
共食の頻度と他の質問との関係

「家族の人と一緒に食事をとっていますか？」との質問に対し、「いつも一緒」と答えた生徒を「いつも一緒にとっている群」とし、それ以外の回答（一緒が多い、ひとりが多い、いつもひとり）をした生徒を「その他の群」として他の質問との関係を調べてみました。

きれいな食べ物がありますか？

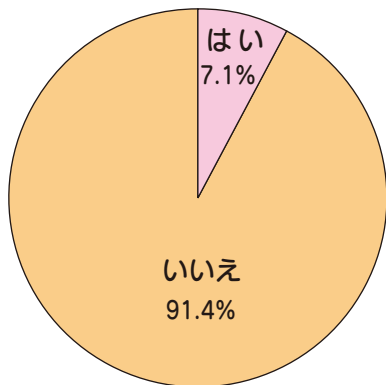


いつも一緒にとっている群 (48.6%)

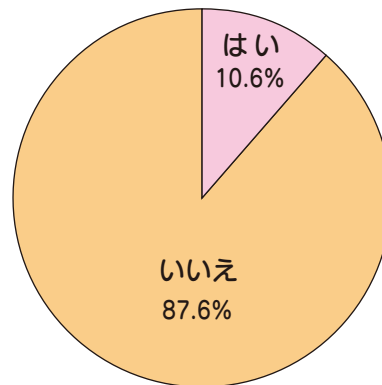


その他の群 (51.3%)

ダイエットを考え、食事をとらないことがありますか？



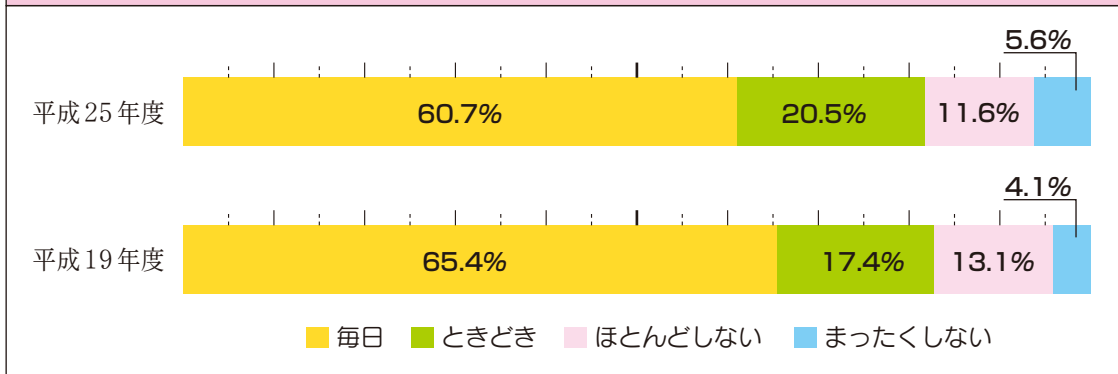
いつも一緒にとっている群 (48.6%)



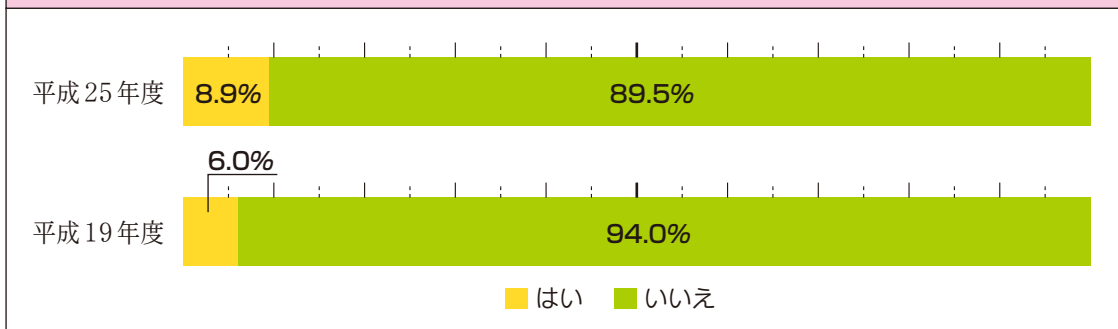
その他の群 (51.3%)

中学2年生：その他食に関連する項目に関する意識

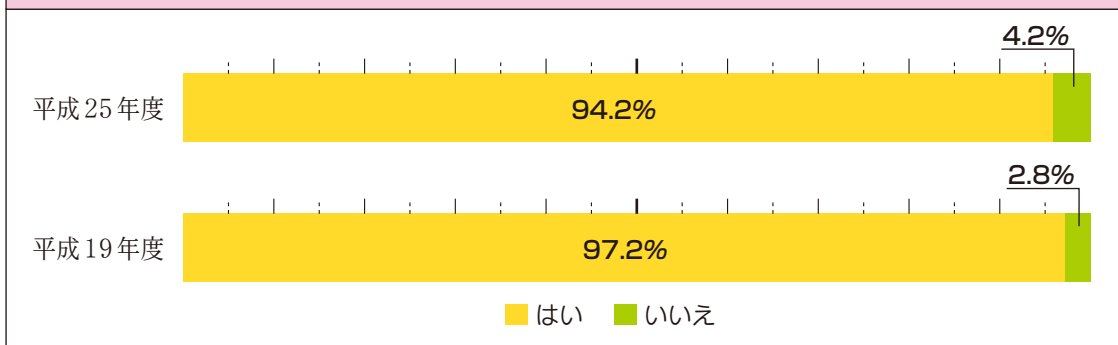
⑦ スポーツをしていますか？



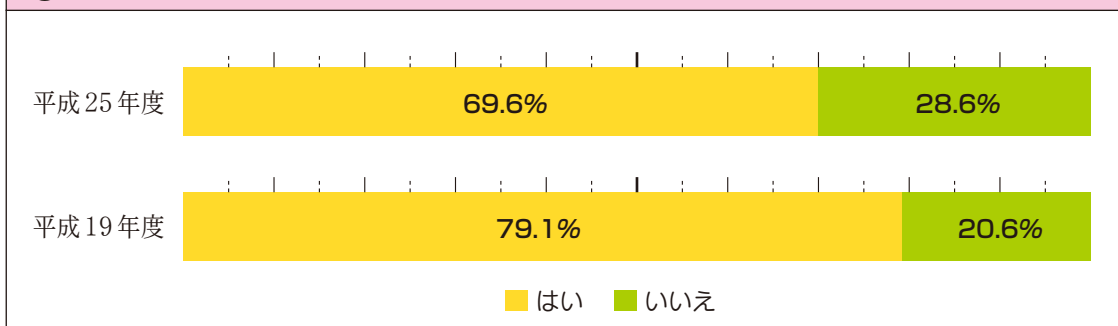
⑧ ダイエットを考え、食事をとらないことがありますか？



⑨ 畑や田んぼで野菜や稲などが育っているのを見たことがありますか？



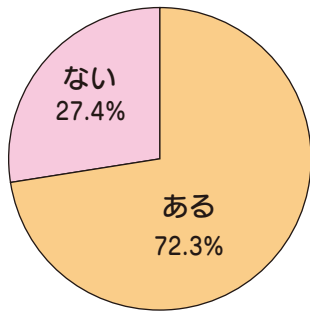
⑩ 田植えや稲刈り、いも掘りなどの、農作業の経験がありますか？



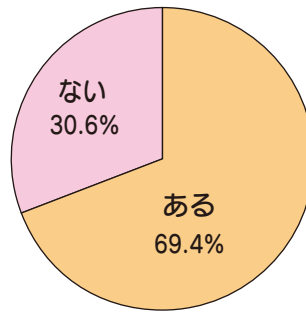
給食の喫食と農業経験との関係

「給食は全部食べますか？」との質問に対し「全部食べる」と答えた生徒を「全部食べる群」、「ときどき残す」と答えた生徒を「ときどき残す群」、「残す」と答えた生徒を「残す群」として農作業の経験との関係を調べてみました。

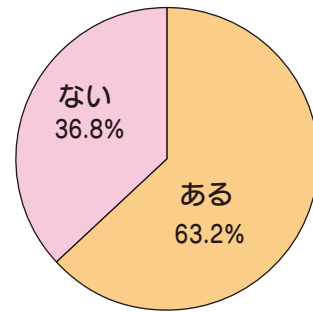
農作業の経験はありますか？



全部食べる群 (58.2%)



ときどき残す群 (33.2%)



残す群 (6.9%)

3 寄せられたご意見

次に、保護者のみなさんから寄せられた、食事・食生活に関するご意見を紹介します。

【朝食】

- ・栄養がとれて、手軽にできるものを教えていただきたいです。
- ・朝食はハム・ベーコン・ウィンナー・卵に偏ってしまっています。
- ・朝食を一人で食べさせていることはいけないと知りつつ毎日が過ぎていきます。
- ・朝ゆっくりと時間が取れません。
- ・朝起きた順に食べていくので、孤食になってしまいます。

【体験】

- ・私の実家がお米作りをしていたり、主人の実家で家庭菜園をしていたりで少しですが体験をさせています。
- ・田植えや稲刈り、いも掘りなど保育園などでも体験させてほしいです。
- ・自分で田植えなどの体験をさせようと思ってもどこでやっているのか探すのが大変。情報提供してほしいです。
- ・種まきや収穫を体験すると野菜への苦手意識が少なくなると聞きました。難しいとは思いますが、保育園でもそのような体験・取り組みを検討していただけるとおもしろいかなと思います。

【生活習慣】

- ・主人の帰りが少し遅いので、夕食を食べる時間がちょっと遅いのが気になります。
- ・親の仕事の関係上夕食を一人でとらせてしまうことがあります。良いとは思っていないが特別に悪くも考えないようにしています。できる限りは誰かとは食事をする楽しい食事ができるように心掛けたいです。
- ・食事づくりにかける時間がとれません。食育を進める上で、バランスのとれた食事をつくるためには、調理に時間もかかります。フルタイムで働いていると帰るころには子どもたちはおなかをすかしています。休日も普段できない家事や子ども会などの地域のことなど忙しいです。就労時間を見直すような社会、夫をはじめとする男性の家事参加が必要です。
- ・「孤食」がよくないことはわかっています。しかし、仕事から帰ってご飯を作り、そのころは私はクタクタと一緒に食事とはいきません。でも、せめて子どもの食べる姿を見るよう一緒に座っています。それでも孤食になりますか？

【学校】

- ・清須市では中学生まで給食があり、大変助かります。ただ、今の時代、習い事・塾やらで、なかなか家族揃ってと言う訳にはいきません。できるだけ揃って食事をしたいものです。いい改善方法があれば、教えてほしいです。

【地産地消】

- ・朝市やJAなど地元のものを買う機会があったらいいと思います。
- ・保育園でトマトの苗を植えたそうです。自分たちで育てたものを食べるという体験をたくさんできるといいなと思います。
- ・地元産又は国内産の食品を購入したいのですが、価格が高い時もあり、なかなか徹底するのが難しいです。

【好き嫌い】

- ・子どもの食べ物に好き嫌いに偏りがあり（食べず嫌い等）、給食でいろいろな食べ物の味を体験して、好き嫌いが少なくなるようになってくれるとよいと思います。
- ・子どもが野菜をあまり食べてくれません。
- ・生野菜を子どもたちが喜んで食べるドレッシングの作り方を教えていただけると嬉しいです。
- ・苦手な食べ物が多く、味つけや料理がワンパターンになってしまいます。幼児の適量がどれくらいかわかりません。家庭での食育の進め方の参考にしたいので、これからも定期的に情報を提供して欲しいです。

【バランス】

- ・私が料理が好き（得意）ではないので毎日の献立が難しく、ワンパターン化しています。ヘルシーメニューとか知りたいです。野菜をたくさん食べさせたいと思います。
- ・成長期なのでとてもたくさん食べます。食べすぎなのでは時々心配になります。
- ・食が細いので、たくさん食べてほしいです。
- ・ごはんとおかずをいっしょに食べる事ができません。
- ・3世代同居で全員が同じものを食べるようにしているので、何かの機会にレシピの紹介の場があればと思います。
- ・価格や調理の手間を考えるとどうしても魚より肉メインの料理が多くなってしまいます。

このほかにもたくさんの貴重なご意見をいただきました。
ありがとうございました。

4 検証と課題

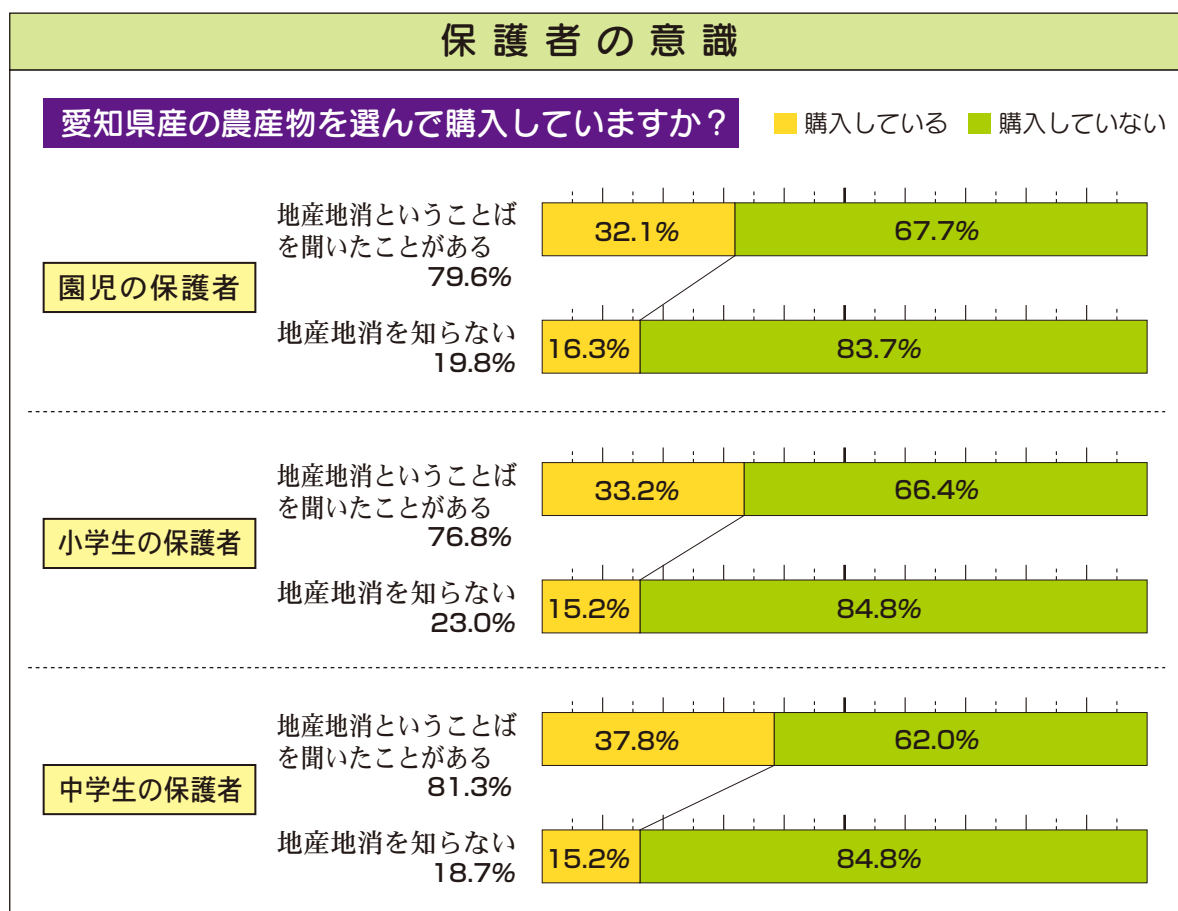
検証 1

食育を通じて地産地消が浸透してきました。

- ・「地産地消」ということばを聞いたことがある方の割合が、43.5%から79.4%へアップしました。

「地産地消」とは国内の地域で生産された農林水産物（食用に供されるものに限る。）を、その生産された地域内において消費する取り組みです。食料自給率の向上に加え、直売所や加工の取組などを通じて、6次産業化にもつながるものです。身近な食べ物の消費や利用を進めることは、遠くから運ばれてくる食べ物を使うよりも輸送に係るエネルギーの節約にもなります。「地元でとれた野菜は地元で消費しましょう。新鮮だし、作っている人の顔が見えて安心だよ。」という意味ですが、清須市では、給食で積極的に「地産地消」を推進しており、今では日常的なことになってきました。

しかし、次のグラフからは、地産地消の認知度について増加がみられるものの、実際の購入意識にはつながっていない様子がみられます。



課題 1

地域のもを購入する行動に結びつくような食育のしくみづくりが必要となっています。

新鮮で、安全、安心な野菜を市民が利用できるよう、安全な地場野菜の生産を奨励し、産直施設を充実させるとともに、保育園、幼稚園、学校の給食や職場、地域が連携して地産地消の推進に取り組むことが必要です。

また、食の知識は、体験してはじめて実感し身につきます。一過性の体験ではなく、一つの農産物について、栽培、収穫、料理までといった継続的な体験に市民協働で取り組んでいく必要があります。



6次産業化

コラム②

「6次産業化」とは、農林水産物を収穫・漁獲（第1次産業）するだけでなく、加工（第2次産業）し、流通・販売（第3次産業）まで手がけることで、農林水産業の経営体質強化をめざす経営手法です。第1次産業の「1」に第2次産業の「2」と第3次産業の「3」をたして「6」になることから名づけた造語です。農林水産業者の6次産業化で、従来、第2次・3次産業事業者に回っていた加工賃や流通マージンなどを農林水産業者自身が獲得し、付加価値を向上させるねらいがあります。農林水産物のブランド化、地域特産品の開発、消費者への直販などの手法がとられることが多く、販路拡大や農山漁村活性化と関連づけて論じられることが多いようです。

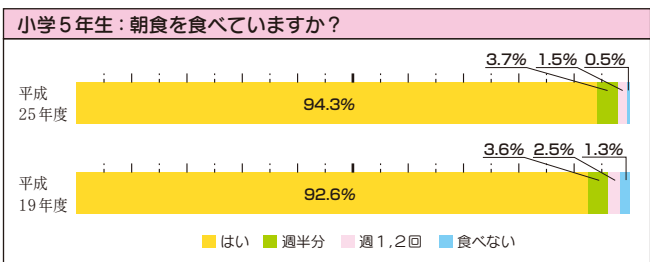
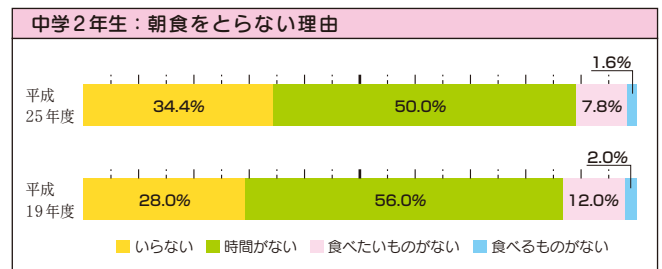
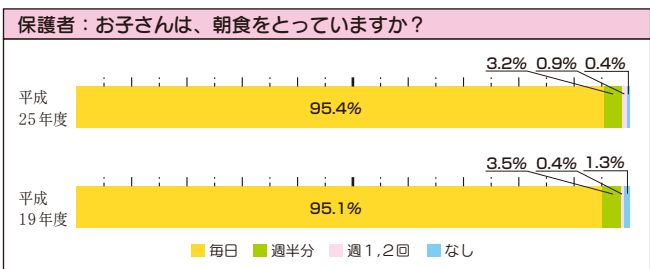
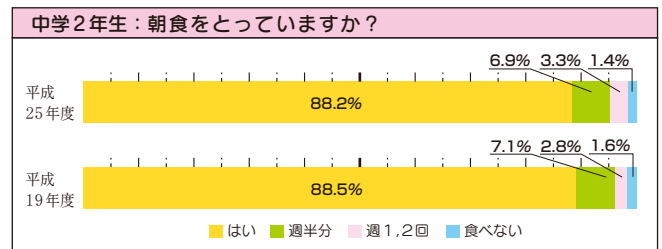
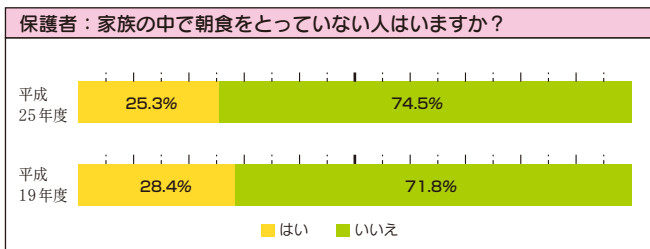
清須市では、西春日井生活改善実行グループのみなさんが、一場地区のかりもりの収穫から漬けものにしての販売、西牧にんじんの収穫からジャムの販売に取り組んでいます。

検証 2

朝食を毎日とる方が増えています。しかし、中学生は前回と同じ数値でした。

児童生徒の保護者の方への質問で、家族の中で朝食をとらない人の割合は25.3%となり前回より3.1%減っています。併せて、子どもの朝食について「毎日食べる」と答えた方は前回より0.3%増え、95.4%となっています。

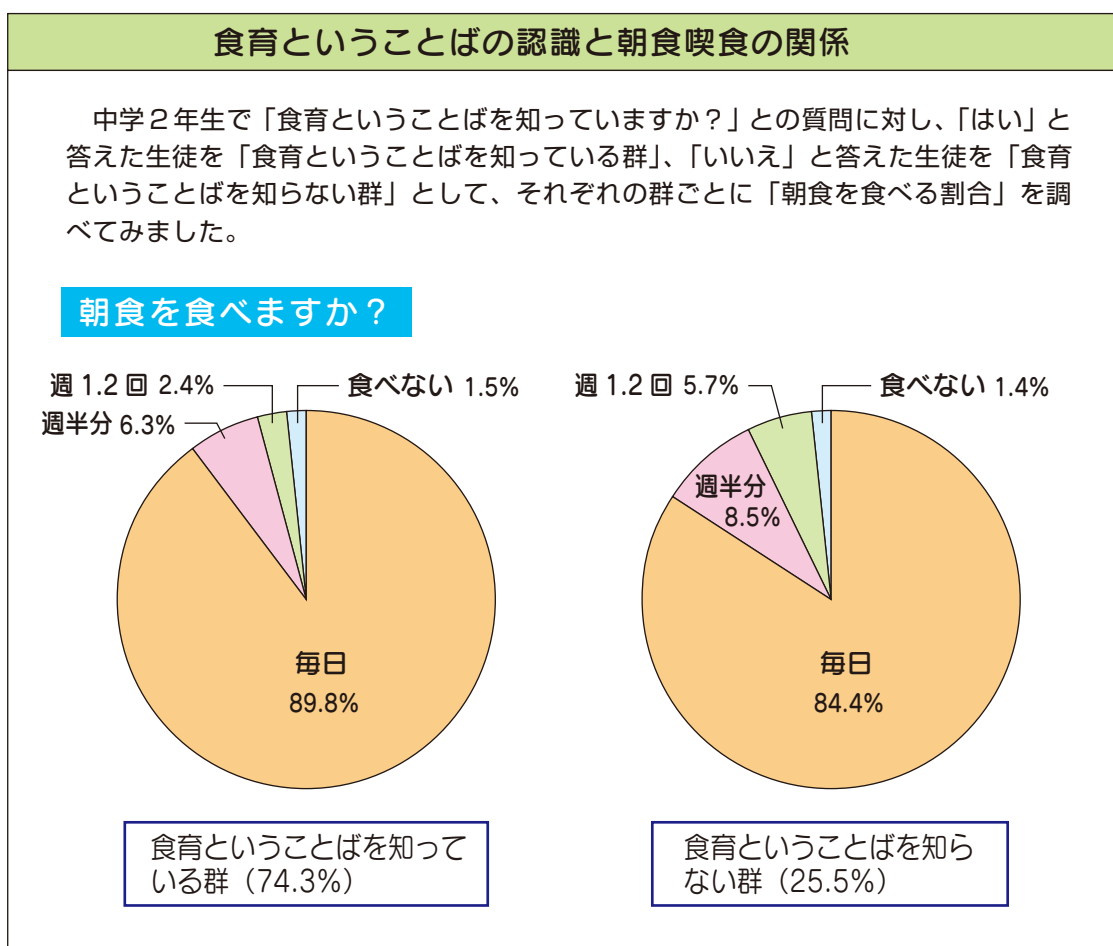
一方、小学生への質問では、「朝食を毎日とる」は1.7%増え、94.3%となったものの中学生では、0.3%減り88.2%となりました。中学生の朝食をとらない理由として、「いらない」と回答した割合が6.4%増え、34.4%となっています。



課題2

毎日朝食をとることができるような食育の取り組みが必要となっています。

下の円グラフにみられるように食育という言葉を知っている中学生の方が、朝食を毎日食べる割合がやや高い傾向が見られています。朝食は、脳が目覚める、肥満の防止、代謝を促進し、活力・やる気を高める効果があります。若い世代から、朝食を毎日食べることの大切さや、望ましい朝食について理解し、食習慣として身につけることができる食育の展開が必要です。



検証 3

給食を全部食べる児童生徒が増えてきました。

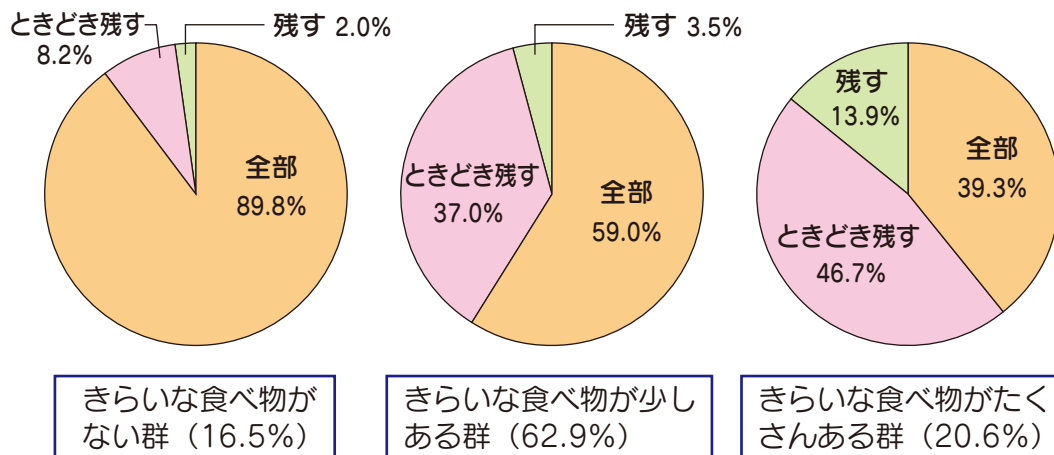
小学生は、「給食は全部食べますか？」の問いに前回より12.6%増え60%に、中学生は、18.1%増え58.2%となりました。また、アンケートからは、嫌いなものがたくさんある子どもが給食を残す傾向があることがわかってきました。

好き嫌いと給食の喫食状況

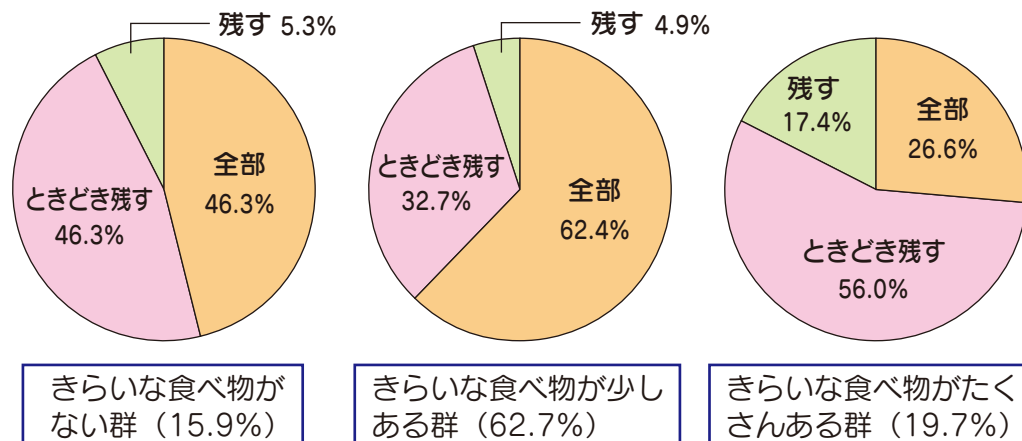
「きれいな食べ物はありますか？」との質問に対し、「ない」と答えた児童生徒を「きれいな食べ物がない群」、「少し」と答えた児童生徒を「きれいな食べ物がすこしある群」、「たくさん」と答えた児童生徒を「きれいな食べ物がたくさんある群」として、それぞれの群ごとに「給食を全部食べる割合」を調べてみました。

給食は全部食べますか？

小学5年生



中学2年生



課題3

学校での食育には、給食の食べ残しを少なくする取り組みが必要です。

給食を全部食べる子どもが増えてきましたが、小中学生とも60%程度です。このことは40%の子どもがまだ食べ残す傾向にあることがうかがえます。

食べ残しの問題は食べ物への感謝の心の育成や、栄養量の確保の問題から改善する必要があります。

食べ物への感謝の気持ちを育てる方策や家庭で好き嫌いを軽減する工夫、学校における偏食指導や食べ残しを少なくする新たな取り組みの必要性が課題としてみえてきました。



清須市の特産野菜

コラム③

清須市では、いろいろな特産野菜があります。そのいくつかを紹介します。

- 土田かぼちゃ・・・市内のスーパーでも販売されます。観光協会では、この土田かぼちゃを使ったご当地カレーを製作、販売しています。また、食生活改善推進員連絡協議会では、市内の中学校をまわり、この土田かぼちゃを使った料理教室を開催しています。
- 宮重大根・・・愛知の伝統野菜にも選ばれていて、市内のスーパーでも販売されます。観光協会では、毎年この宮重大根を使った漬物を製作、販売しています。
- だいこんきよす・・・宮重大根と美濃早生大根を掛け合わせてできた大根です。学校給食に使われています。
- にんじん・・・春日西牧地区で作られる「西牧にんじん」は、とても甘くみずみずしいにんじんです。
- ほうれん草・・・市内全域で作られています。毎年11月に開催される「農産物品評会」でも、多くのほうれん草が出品されます。

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

本計画では、清須市第1次総合計画の将来像である「水と歴史に織りなされた安心・快適な環境都市」に向かって食からの実現を図るため、第2次食育推進計画の目標として、第1次清須市食育推進計画に引き続き「食をとおして、ふれあい、育みあう健康生活のまちづくり」を基本理念とします。

基本理念

「食をとおして、ふれあい、育みあう健康生活のまちづくり」

2 計画のめざす姿

清須市の食育は、市民一人ひとりが生涯にわたって健康で心豊かな生活を実現することができるよう、幼いころから食に関心をもち、食の大切さを学び、食文化の理解を深め、自然の恵みや感謝の心を育むことを目的としています。

また、「食育」の推進にあたっては、食生活を基本としながら、保育園、幼稚園、小中学校など、子どもの食に関わる機関やボランティア団体、生産者、流通業者、消費者、行政等が「協働」で引き続き取り組んでいく必要があります。

こうしたことから、第1次食育推進計画で掲げたタイトル「はじめよう清須のおいしい物語」を、第2次食育推進計画では「周知」から「実践」へを基本コンセプトとし、「はじめよう」から次の段階の「やってみよう」に改めることとします。そして、めざす姿については従来を踏襲し、

- ☆一人ひとりが食を正しく理解し、健康な生活を送る
 - ☆食を通してつながり、豊かな環境づくりに参加する
 - ☆地域の食を大切にし、伝えていく地域の輪をつくる
- とします。

第2次清須市食育推進計画のタイトル

「やってみよう清須のおいしい物語」

めざす姿

- ☆一人ひとりが食を正しく理解し、健康な生活を送る
- ☆食を通してつながり、豊かな環境づくりに参加する
- ☆地域の食を大切にし、伝えていく地域の輪をつくる

3 取り組みの柱と基本施策

市では、第1次清須市食育推進計画策定後、5年間各種の施策に取り組んできました。しかし、平成25年6月に実施したアンケートの結果を見てもまだまだ、めざす姿には至っておりません。

こうしたことから、第2次清須市食育推進計画の取り組みの柱は、これまでの柱を継続することとし、引き続き各種の事業に取り組んでいきます。

取り組みの柱

☆食をとおして心身の健康づくりをすすめる

- ・生まれる前からの食・成長期の食や健康を大切にする。
- ・若年層からの生活習慣病予防に取り組む。
- ・主要栄養素の著しい不足や過剰摂取の予防に取り組む。
- ・成長期の成長や健康のため望ましい生活リズムを身につける。
- ・食と健康の関係を正しく理解する。

☆食をとおして感謝の心を育む

- ・「いただきます、ごちそうさま」の習慣を身につけ、感謝の心を育む。
- ・子どもたちから家族で食のマナー、日本の食の伝統・文化等について学べるようにする。
- ・子どもたちが農業体験等をとおして、自然の恵みに感謝する心を育むような機会を創出する。
- ・生産から食卓までの食育を啓発する交流の場をつくる。

☆食をとおして地域づくりをすすめる

- ・地元でとれた野菜のよさを理解して積極的に利用する。
- ・子どもたちが、生産から食卓までの過程を正しく知ることができる環境をつくる。
- ・地域で食育を推進するサポーターを養成する。
- ・生産者との交流による地域づくりを推進する。

☆食をとおして適切な情報の活用の輪を広げる

- ・食品成分表示、食品衛生について正しい情報を提供する。
- ・地元野菜や郷土料理などの情報を発信する。
- ・市のホームページに「食育」のページをつくと共に、「食育だより」を発行し、食育の情報を発信する。

第4章 目標指標

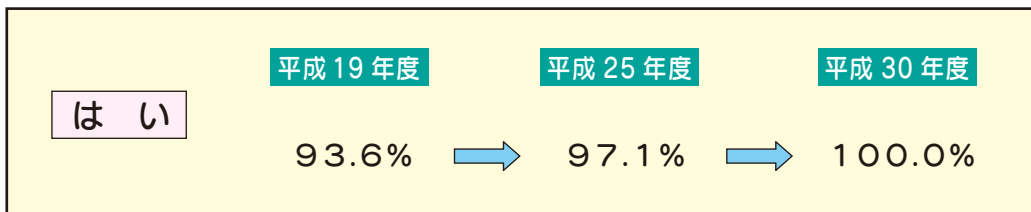
食育推進の目標

食育を具体的に進めるにあたって、市民のみなさんが食と農と健康の関係について十分に理解を深め、それぞれの役割と責務を認識して積極的に実践される目標を設定し、施策を展開していくことが大切です。

こうしたことから、平成25年6月に実施したアンケートの結果をふまえ、平成30年度までに次のとおり目標を設定し、成果や達成状況を客観的な指標により把握できるようにします。

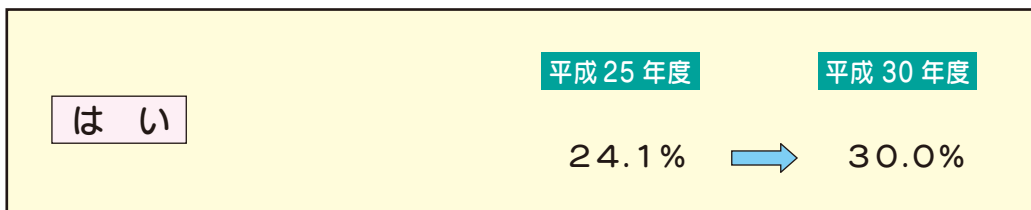
1 市民全体

(1) 食育ということばを知っていますか？



(参考) 食育に関心がある 89.0% (第2次愛知県食育推進計画より)

(2) バランスのとれた食事を食べていますか？



(参考) バランスのとれた食事を実践している 45.3% (第2次愛知県食育推進計画より)

(3) 定期的に運動をしていますか？

	平成 19 年度	→	平成 25 年度	→	平成 30 年度
毎日	8.5%	→	8.6%	→	10.0%
週 3.4 回	5.4%	→	7.0%	→	10.0%
週 1.2 回	17.6%	→	16.9%	→	20.0%

(4) 家族の中で朝食をとらない人はいますか？

	平成 19 年度	→	平成 25 年度	→	平成 30 年度
はい	28.4%	→	25.3%	→	20.0%

(参考) 朝食の欠食割合

小学5年生	2.4%
中学2年生	5.0%
高校2年生	8.1%
男子大学生	25.9%
30歳代男性	14.8%

(第2次愛知県食育推進計画より)

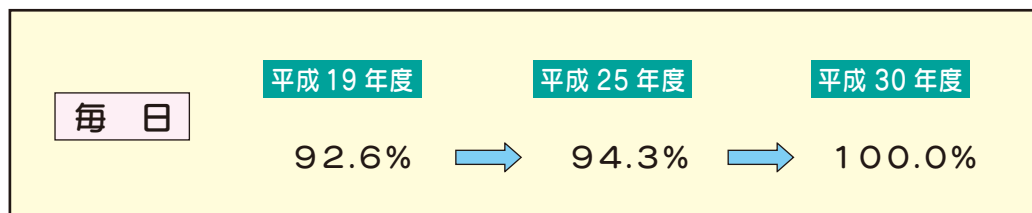
(5) 地産地消（愛知県産含む）の農産物を選んで購入していますか？

	平成 19 年度	→	平成 25 年度	→	平成 30 年度
はい	19.6%	→	29.8%	→	35.0%

(参考) 学校給食において地域の産物を活用する割合 37.0%
(第2次愛知県食育推進計画より)

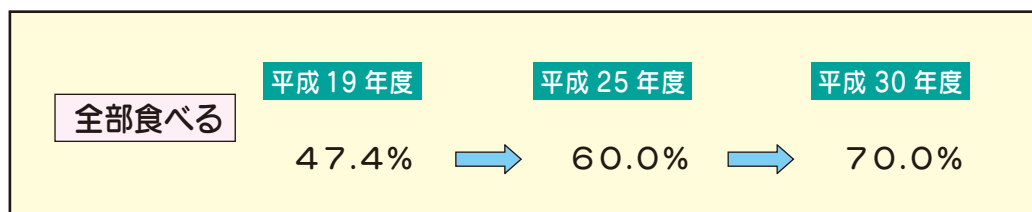
2 小学生

(1) 朝食を毎日とっていますか？

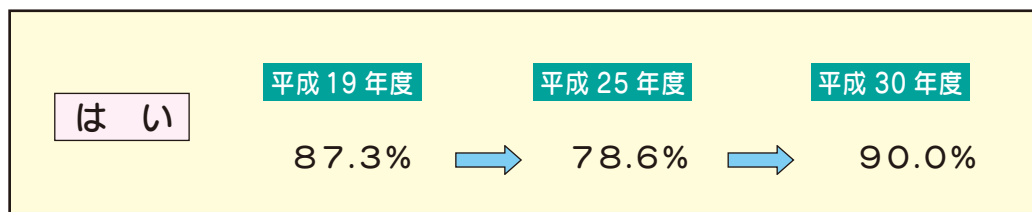


(参考) 朝食の欠食割合 2.4% (第2次愛知県食育推進計画より)

(2) 給食は全部食べますか？



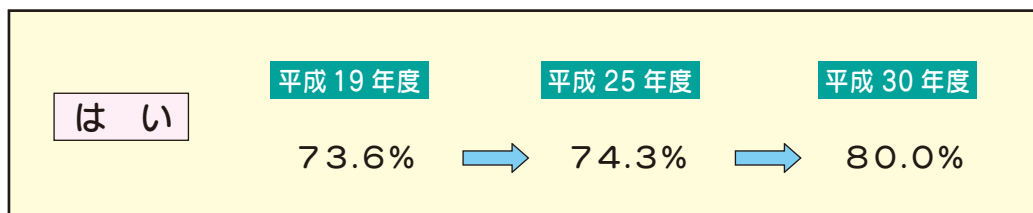
(3) 田植えや稲刈り、いも掘り等の農作業の経験がありますか？



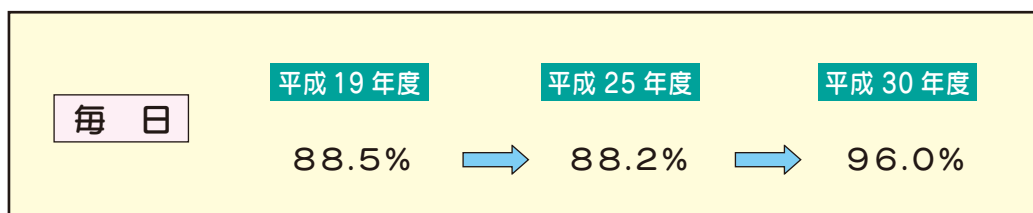
(参考) 農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合 62.8%
(第2次愛知県食育推進計画より)

3 中学生

(1) 食育ということばを知っていますか？

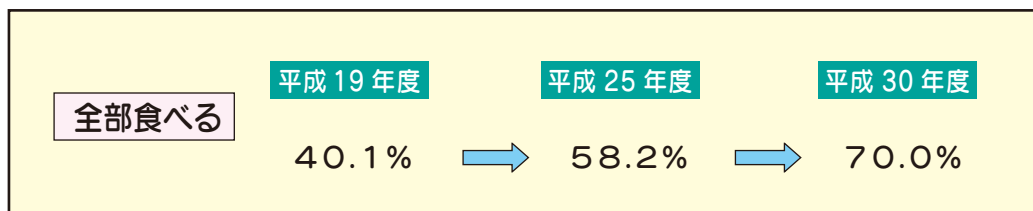


(2) 朝食を毎日とっていますか？

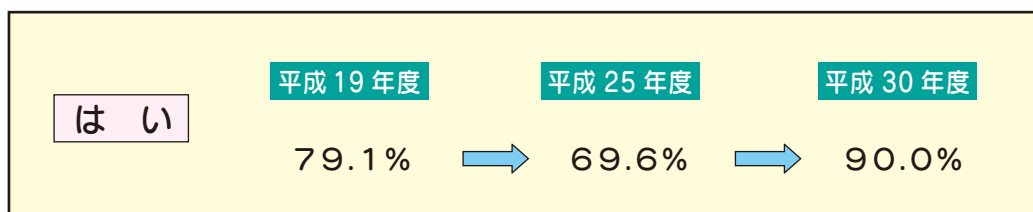


(参考) 朝食の欠食割合 5.0% (第2次愛知県食育推進計画より)

(3) 給食は全部食べますか？



(4) 田植えや稲刈り、いも掘り等の農作業の経験がありますか？



(参考) 農林水産業に親しむ活動に参加する県民の割合 43.7%
(第2次愛知県食育推進計画より)

第5章 食育推進に関する取り組み

市内各施設、団体における食育に関する実践事例

—現在、実践していること、進めていること—

1 食生活改善推進員連絡協議会

私たちは、市の食育推進事業の一環として

平成 23 年 10 月 新川中学校 2 年生 4 クラス 152 人

平成 24 年 9 月 西枇杷島中学校 1 年生 4 クラス 130 人

平成 25 年 10 月 春日中学校 1 年生 3 クラス 84 人

を対象に家庭科の授業で地産地消の推進と地域で生産されている食材の理解を深めるため、市の特産野菜「土田かぼちゃ」を使い「プリッツと白玉だんご」を生徒と一緒に作りました。

レシピの説明・調理器具の使い方・材料の量り方・手順などの実習と試食。各テーブルに食改メンバーが2名入り、生徒さんたちは慣れない包丁を握り固いかぼちゃの皮に苦戦しながらも協力し合い、交流を交えて楽しく調理実習を心掛けています。

また、県の食育推進事業として、「男性の料理教室」「親子の食育教室」も行っていきます。「親子の食育教室」ではバランスよく食べる事の大切さを「食事バランスガイド」の5色に対応させたキャラクター「食まるファイブ」を使い、紙芝居で小さなお子さんたちにもわかりやすく伝え、体験学習を通して親に共食の大切さも感じ取ってもらう事を目的に行っています。

うす味（減塩）の定着、バランスのよい食事、食への興味関心・楽しさ、食育を楽しむ時間を共に作り実践していきたいと思えます。

まずは、自分の健康、家族の健康を考え、また、その周りを巻き込み地域へと「周知から実践へ」地域に密着した活動を推進していきたいと思えます。



▲ 男性の料理教室



▲ 親子の食育教室

2 西枇杷島小学校

西枇杷島小学校では、食育事業として大きく次の2点のことに取り組んでいます。

1点目は、1年生の子どもと親と一緒に給食を食べる「ふれあい給食」です。この「ふれあい給食」は、1年生が小学校に入学して間もない6月に行われます。少し、学校生活に慣れてきたころに『親子と一緒に給食を食べる』という行事は、子どもたちにとっても親にとっても楽しみな行事です。

食後には、学校栄養士の方から給食についての話を伺います。育ち盛りの子どもたちにとって、どんな給食がよいのか、また、栄養のバランスや子どもたちが喜んで食べる調理の工夫などを伺います。私が子どものころは、給食というとあまりおいしくないイメージだったのでふれあい給食で食べたときに、とても美味しくて驚きました。「おいしいね!」「今度これ作ってみるね」などと会話をしながら食べたのを覚えています。これも、常日頃から子どものことを考えて一生懸命献立を立ててくださる栄養士さんや調理師さんの方々のおかげと感謝しています。

2点目は給食の試食会です。PTA行事の一つとして毎年秋に「給食試食会」を開催しています。これは、希望者のみの参加ですが、毎年多くの方々に参加していただいています。子どもと一緒に食べませんが、お母さん方と一緒におしゃべりしながら食べる給食は、まるで、自分が子どものころに戻ったような気分させてくれます。子どもが学校から帰ってきて「今日、学校で給食食べてきたよ!」「〇〇が入っていたけど食べられた?」と会話もできます。

この2つの取り組みは、親子の関係を深めるのにも役立っています。子どもたちが毎日食べる給食をただ「献立表」を見るだけで終わってしまうのではなく、一緒に食べることで、同じ気持ちを共有することができるからです。

給食という、学校独自のツールを通して、子どもの健康を考え、子どもたちとコミュニケーションを行うことができるどちらも貴重な体験となっています。



▲ ふれあい給食



▲ 給食試食会

3 春日中学校

「土田かぼちゃの簡単おやつ」づくりに挑戦

平成 25 年 10 月 16 日・18 日の2日間に分かれて、家庭科調理実習で、1年生の各学級が土田かぼちゃを使った「かぼちゃのプリッツ」「かぼちゃ白玉黒蜜がけ」づくりに挑戦しました。

土田かぼちゃは、清須市土田地区において明治時代から栽培されているかぼちゃで、肉厚でもっちりした食感と甘さが特徴です。

この実習のために、食生活改善推進員連絡協議会のみなさんにおこしいただき、調理実習の指導をしていただきました。

生徒たちは、慣れない手つきでかぼちゃの皮をむき、蒸したりすりおろしたりしながら、調理していきました。さらに、プリッツや白玉の形にするには、生地をしっかりとかねる必要があります。こうした工程に悪戦苦闘しながらも、楽しく協力して実習に取り組みました。

そして、見事完成。地元の食材を使って、自分たちの手で一生懸命作ったプリッツと白玉。多少形がいびつでも、大きさが揃っていなくても、みんな、大満足な笑顔で試食しました。

この実習を通して、地産地消や郷土料理の意義、重要性も学ぶことができました。

2日間にわたりお世話になった食生活改善推進員連絡協議会のみなさん、ありがとうございました。



▲ 女子より男子の方が積極的です



▲ みんな集中しています

4 女性の会

女性の会は会員の親睦、教養、社会奉仕を目的として活動をしています。会として食育を単独で取り上げての活動はしておりませんが、以前食育をテーマとしてセミナーを開催いたしました。そのなかで、私たちの体は食べた物でできていること、健康でいるためには責任を持って食べること、そして、バランスのよい食事はよい排泄につながることを、そして、排泄の大切さを学びました。でも、このことは主婦歴も長く、家族の健康を守ってきた会員のみなさんには当たり前のことであって、このセミナーで自分たちのやってきたことが間違っていなかったと確認の場になったようです。

最近では、会員の平均年齢が60代となり、生活習慣病の心配が出てきました。それにもやはりバランスのよい食事が大切で、私たちが元気に活動を続けていくには食育を切り離して考えることはできません。常に食育を意識し、市民のみなさんにも食育の輪を広げていきたいと思っています。



▲ 食育セミナー



▲ 「賢く食べる」とは…

5 保育園

『楽しく食べる子ども』をめざして

清須市保育園では、以下の5つの子ども像をめざして日々、食育活動を展開しています。

食育活動における子ども像

- ① お腹がすくリズムのもてる子ども
- ② 食べたいもの、好きなものが増える子ども
- ③ 一緒に食べたい人がいる子ども
- ④ 食事作り、準備にかかわる子ども
- ⑤ 食べものを話題にする子ども

主な取り組み

食育を非日常的なイベントとして捉えるのではなく、日々のごく当たり前の事柄が食育活動につながると考え、献立に使われている食材、旬の食材、伝統行事食について話題にしたり、楽しい雰囲気の中で食事ができるように一人ひとりの子どもの発育、発達、食事状況に応じた配慮をしたりしています。

子どもたちが理解しやすい視覚的教材（パネルシアター、エプロンシアターなど）を用いて、食事に必要な生活習慣や食事のマナー、咀嚼などを楽しみながら身につけられるようにしています。

保護者にも関心を持ってもらえるよう取り組みの様子を掲示などで伝え、園での食育が家庭にもつながるようにしています。

その他、栽培体験を通して実りの喜び、収穫の楽しさ、自然の恵みに対する感謝の気持ちが持てるようにしています。



▲ 食育エプロンシアター

栄養士との連携

地元の食材や栄養素についての話を聞いたり、箸の使い方、食事のマナーについて指導を受けたりしています。

歯科衛生士との連携

乳歯から永久歯の交換時期に永久歯をむし歯にしない為のおやつの選び方や歯みがきの仕方とともに、生涯楽しくおいしく食べるための歯の役割や噛み方について、年一回年長児とその保護者がともに学習しています。

保護者への啓発

毎日、給食を降園時に展示しています。

ふれあい給食では、親子で会食し、園での食事の様子に関心を持ち、給食への理解を深めてもらえるようにしています。



▲ ふれあい給食



▲ 栄養指導

6 西春日井生活改善実行グループ

西春日井生活改善実行グループは、毎年開催される産業まつり、食育まつり、農業際を通じて地元産の野菜の安心・安全をPRし販売しています。また、地元産野菜を使って、キャロットミックスジャム、人参クッキー、ケーキ、鬼まんじゅう、ゴーヤのつくだ煮、あげ寿司、豚汁などを作り、農産物の活用の仕方と私たちの活動を紹介してきました。食育まつりも第1回目から参加して食を通じての地域へとれたて野菜のよさを伝えています。また、農業推進員さんとの交流会では地元野菜を使い伝承料理の弁当を味わっていただきました。最近では家庭でも行事食料理を作らなくなってきましたが、工夫次第で簡単に手軽にできる料理はたくさんあります。私たちは、各イベントに参加する中で、行事食、伝統料理を伝えていきたいと思っています。

もう一つ、現在取り組んでいるのは「6次産業化」です。

地元産野菜を作り、加工し、そして販売する取り組みです。毎年、イベントには「西牧人参」を使ったキャロットミックスジャム、一場の「かりもり漬け」を販売してきました。

今後は農産物の消費が望めない野菜の取り組みとして、加工品の開発や環境作りも考え6次産業化の取り組みを推進し、食育活動に取り組んでいきます。



▲「かりもり漬け」の伝承
農業体験塾の生徒に教える



▲ キャロットミックスジャム

7 保育園・幼稚園給食センター

保育園・幼稚園給食では、栄養が満たされることはもちろん、楽しい給食により、子どもの心身の安定が図られ、健康の維持と、食事の基本的習慣が身につくよう努めています。

- ・ご飯中心の献立で、使用するお米は愛知県産の「愛知のかおり」です。
- ・主菜、副菜の内容は、煮物・揚げ物・炒め物・蒸し物・和え物・汁物などがあります。
- ・旬の食材を使った料理や、行事食、郷土食も取り入れ、地産地消に努めています。

① ふれあい給食

親子で会食することにより、子どもの発達に応じた食事内容・量・味付けや園での子どもの様子を知ってもらうことができます。

② 行事食

日本古来の伝統行事・郷土の味を伝えるため、行事食を積極的に取り入れています。また、季節（旬）の食材を献立に取り入れ、季節感を出しています。

③ バイキング給食

自ら料理を選ぶことにより、バランスのよい食事や、自分の適量を取り分ける力を養えるようにします。また楽しい雰囲気の中で会食することにより、食を楽しむ心を育てます。

④ 献立だより

月々の献立表と合わせ、その時期にあったテーマで献立だよりを作成し、家庭でも食への関心を持ってもらうことを目的にしています。

⑤ 地産地消の取り組み

市内の農家から収穫した食材を提供してもらい、その食材を取り入れた給食を実施しています。清須の風土を身近に感じ、作ってくださった人に感謝して、食べ物を大切にする心を育てます。

- ⑥ 給食メニューの写真を展示したり、給食メニューや季節のレシピを配布するなど、地域への啓発を行っています。



▲ 給食メニューの展示（食育まつり）



▲ 献立だより

8 学校給食センター

－ 地域と給食をつなぐ活動を通して－

清須市は、宅地化が進み農地が少なくなってきてはいるものの、大根・じゃがいも・人参・ほうれん草・小松菜など多くの野菜が作られています。このような地場産物は、季節に応じて児童生徒の身近なところで生産される、いわば生産者の顔の見える野菜であり、新鮮かつ安全性の高いものです。

学校給食では、こうした地場産物を積極的に用いて給食を提供しており、特に、毎月19日の食育の日や全国学校給食週間には清須市産の野菜を献立にとり入れ紹介しています。

さらに、野菜作りに携わる農家の努力や工夫、思いについて児童生徒に伝え、地域への啓発をしています。

実践内容

(1) 学校における取り組み

① 給食委員会による生産者訪問・収穫体験

給食委員会の時間を利用し、畑の見学や収穫体験をし、収穫した野菜を給食で提供する。

② 学年集会・学校集会

学年集会や学校集会で「食べよう！清須の野菜集会」を行い、清須の野菜クイズ・野菜紹介をし、地場産物に対する理解を深める。

③ 生産者を招いての交流給食

その日の給食で使用した野菜の生産者を招いて交流の時間をもち、生産者の思いを知る機会とする。

④ 給食試食会

給食試食会を行い、地産地消の取り組みやその利点を説明し、給食への理解を図る。



▲ 地場産物収穫



▲ 生産者を招いての交流給食

(2) 給食センターにおける取り組み

- ① 給食だより、愛知を食べる学校給食の日、学校給食週間のリーフレットの作成
地場産物の利点や効用、農家の人の声、給食献立などを記載し啓発を図る。
- ② 栄養指導及び放送資料
毎月19日の食育の日に使用した野菜の生産者の紹介や、栄養について知らせる。
- ③ 地場産物生産・収穫
農業体験などで児童生徒が生産・収穫したさつまいも・宮重大根・米などの地場産物を献立に生かして提供する。
- ④ 清須市主催の食育まつりでの展示及び掲示
地場産物を使用した学校給食のレシピを配布するなどして、地域にも啓発する。



地産地消

コラム④

地域で生産されたものを地域で消費することを「地産地消」といいます。清須市では、学校給食で毎月19日を地産地消の日と定め、給食に清須市産の野菜を提供できるよう農家の協力をいただいています。

メリットは、

- ① 新鮮でおいしく、栄養価の損なわれていない食材を食べることができます。
- ② 生産者の顔が見えるので「安心」です。
- ③ 農林水産業を身近に感じることで理解が深まります。
- ④ 食材本来の「旬」を感じることができます。
- ⑤ 産直施設などで規格外のものを販売できるため、生産者のムダが減り、消費者も安く買うことができます。

多くの可能性が詰まった「地産地消」。さっそく実施してみましょう。

9 健康推進課

健康推進課では“食育のできるナイスミドル”をめざし、「健康ナイスミドル講座」で男性向けに栄養の講座を実施しました。

最近では、結婚後の若い男性で育児のできる「育メン」、料理上手な「料理男子」がもてはやされています。一方で、団塊の世代の方は「男子厨房に入らず」で家事の不得手な方も多い現状です。定年退職後、家庭にいる時間が長くなり、「自分にもできることを増やしたい」とチャレンジする方、家族に「お父さんの作ったご飯は美味しい」と言われることが嬉しいとスキルアップ目的に参加される方、老年期にできる限り自立した生活が送れるようにしたいなどみなさん楽しく受講していました。

平成 25 年度は男性限定版の食生活改善推進員（ヘルスマイト）を養成する講座を実施しました。

食生活改善推進員は、わが家の食卓を充実させ、地域の健康づくりを行うことから出発した「食生活を改善する人」を意味します。“私たちの健康は私たちの手で”をスローガンに、食を通じた健康づくりのボランティアとして活動を進めてきました。男性会員が加わることで、市民に対し生涯を通じた食育の推進、健康づくりの担い手としての活躍がますます広がって行くことが期待されています。

内閣府が公表した「食育に関する意識調査」では普段の食事で心がけていることは「野菜を食べること」が 92.4%と最も多くありました。野菜を食べることは大腸がん予防、メタボ予防にもなり関心が高くなっています。子どもころから良い食習慣を身につけ、健康的な生活習慣づくりに心がけることで健康寿命も延びます。市では、各ライフステージに応じて保健師、管理栄養士による健康相談、健康教育などを実施しています。



▲ 食生活改善推進員養成講座



▲ 完成品（健康ナイスミドル講座）

～市民との協働で食育推進を～

産業課の食育推進のキーワードは、「市民との協働」です。市民のみなさんとともに食育を推進し、次世代の者に伝えていきます。

具体的には、

- ① 保育園、小中学校等で行う食育推進事業
- ② 市民（大人）を対象にした農業体験塾
- ③ 市内の食育ボランティア、食育推進団体の情報発信を目的とした食育まつり
- ④ 市民への食育情報発信と啓発を目的とした「食育だより」発行
- ⑤ 特産野菜の振興を目的とした特産物振興委員会の育成です。

① 保育園、小中学校等で行う食育推進事業

- ・ 保育園：市内の保育園、幼稚園児を対象にサツマイモの収穫体験を実施しています。講師は、農業体験塾の塾生が務めます。
- ・ 小学校：市内の小学校3年生の児童を対象に市の特産野菜「宮重大根」の収穫体験を実施しています。講師は清須市春日宮重大根純種子保存会のみなさんが務めます。
- ・ 中学校：市内の中学校生徒を対象に、市の特産野菜「土田かぼちゃ」を使った料理教室を開催しています。講師は食生活改善推進員連絡協議会のみなさんが務めます。

② 市民（大人）を対象にした農業体験塾

公募で集まった、「農業を体験・勉強したい」という方を対象に、約 1,500 m²の畑で、特産野菜を中心とした栽培収穫体験をしていただき、将来の農業サポーター、食育ボランティアを育成しています。講師は特産物振興委員会のみなさんが務めます。



▲ 農業体験塾（白菜の苗づくり）



▲ 春日小 宮重大根のお話

③ 市内の食育ボランティア、食育推進団体による情報発信を目的とした食育まつり
毎年、11月上旬に、食育推進団体、関係各課の協力で食育まつりを開催しています。
このまつりでは、食育講演会をはじめ、各ブースでの啓発活動のほか、特産野菜
を使った試食会も開催しています。

④ 市民への食育情報発信と啓発を目的とした「食育レポート」発行
年4回、市内全戸に市内で行われている食育事業を紹介したり、食育情報を発信
しています。

⑤ 特産野菜の振興を目的とした特産物振興委員会の育成

①から④までの事業の中心となるのは、農業委員、農家の方が中心となった特産
物振興委員会のみなさんです。この委員会は、農業委員、農家、清須市春日宮重大
根純種子保存会、農協等の委員で構成され、市内の食育事業を推進していただい
ています。



▲ 農業体験塾（保育園児の大根収穫体験）



▲ 食育まつり（チャレンジ エコクラブ）

第6章 協働による清須市食育推進の輪

食育は、「食」に関わる様々な分野や関係者が連携・協力を図りながら推進する必要があることから、「食育ガイド」（平成24年5月、内閣府）においては、食育の全体像を俯瞰する図を「食育の環」として示してあります。

この輪では「生産から食卓まで」の食べ物の循環、「子どもから高齢者、そして次世代へ」といった生涯にわたる食の営みの循環を示しています。

また、食育は、豊かな自然、先人から育まれてきた文化、社会経済といった環境と密接な関係を持っており、また生活の場としての地域とのつながりも重要であり、地域の生活と環境との関わりもふまえて、それぞれの地域において「食育の環」が循環し、多様な分野や関係者がつながり、地域の食育の取り組みが広がっていくことが期待されています。

こうしたことから、清須市の食育は、市民一人ひとりをはじめとして、家庭、学校、保育園、幼稚園、地域、生産者、食育ボランティア、行政等との協働による輪を広げ、食育を推進していきます。



〔食育ガイド〕（平成24年5月内閣府）より

清須市食育推進の輪



資料編

第2次清須市食育推進計画策定に至るまでの経過

年度	月	日	内 容	備 考
23	2	1	広報きよす2月号にて食育推進会議公募委員の募集 期間：平成24年2月1日～24日	委員選考
	3	22	食育推進会議の開催 委嘱状の交付、会長・副会長の選任 第1次食育推進計画の推進状況の検証と評価 今後のスケジュール	組織の発足
24	10	11	食育推進会議の開催 第2次食育推進計画の策定に向けて意見交換 (現行目標の見直し、新たな指標等を検討)	基本的方針 の確認
25	5	31	食育推進会議の開催 第2次食育推進計画策定に向けて基礎調査（アンケート）の内容検討	基礎調査
	8	19	食育推進会議の開催 アンケート結果の検証	基礎調査
	11	29	食育推進会議の開催 第2次食育推進計画（素案）の検討 パブリックコメントの実施要領の検討	計画策定
	1月20日 ～ 2月19日		パブリックコメントの実施	
	2	25	食育推進会議の開催 第2次食育推進計画（案）の検討 パブリックコメント結果検証⇒最終案取りまとめ 概要版（案）の検討	計画策定
	3	下旬	第2次食育推進計画の公表	公表

食育推進会議委員名簿

		団 体 名	役 職	氏 名	会議での役職
1	学識経験者	愛知みずほ大学短期大学部	教授	上原 正子	会長
2	食育推進に関 係する団体の 役員又は職員	農業委員会	会長	浅井 尊弘	
3		農業委員会	委員	早川 勝義	
4		食生活改善推進員連絡協議会	会長	伊藤 千里	
5		西枇杷島小学校 PTA (H.25)	副会長	日比野実奈子	
		春日小学校 PTA (H.24)	会長	後藤 政彦	
		春日小学校 PTA (H.23)	会長	小崎 進一	
6		春日中学校 PTA (H.25)	会長	佐藤 寛美	
		西枇杷島中学校 PTA (H.24)	会長	葛谷 和奈	
		西枇杷島中学校 PTA (H.23)	会長	安田奈津枝	
7		保育園保護者会連絡協議会 (H.25)	会長	藤田 友理	
	保育園保護者会連絡協議会 (H.23.24)	会長	山田 紀子		
8	女性の会	会長	山内 文江	副会長	
9	公 募	食生活改善推進員連絡協議会	委員	浅井奈尾子	
10		西春日井生活改善実行グループ	委員	鹿島美枝子	
11	食育推進に 関係する市 の職員	清洲中学校長 (H.25)	校長	岩田 茂	
		新川小学校長 (H.23.24)	校長	齊藤 孝法	
12		清洲東小学校	管理栄養士	江尻 敏代	
13		健康推進課	主幹	森川 治美	
14		保育園栄養士	主任主査	足立 節子	
15		子育て支援課 (H.25)	主任保育士	杉本真奈美	
	子育て支援課 (H.23.24)	園長補佐	高谷 幸代		
事 務 局	産業課		課長	寺井 秀樹	
			主幹	島津 行康	
			主任主査	米沢美智代	

*当時の役職で記載してあります

あとがき

昨年6月に行った調査では、「食育」ということばを知っている人の割合は、5年前と比べ増えてきています。「食育」は一般的な言葉となってきています。

同じ調査の中の幼児を持つ保護者の方々のご意見をみると、「魚より肉が多くなってしまふ」「朝は忙しくて栄養がとれていない」など、「より良く食事がしたいのだけれど・・・」というものが多くみられました。その一方で、「簡単にできる毎日の献立を教えてほしい」「調理法を教えてほしい」等の「やってみよう」というご意見も多く寄せられていました。

これらの調査の内容等をもとに清須市食育推進会議において、5年先を見据えた新たな食育推進計画をまとめさせていただきました。その結果、5年前の食育「はじめよう」から、「やってみよう」という一歩前へ進むことを期待したタイトルといたしました。これは、これからの清須市の食育の目標ともいえます。

その目標を達成するためには、清須市内に生活する多くの方々が、環を結び、力を合わせる事が大切であると考えています。農業生産者や食品加工製造者及び食材を提供する店舗・商店の方々、また料理を提供する飲食店の方々、そして食育に関わっている団体や行政等が、それぞれの立場で食に関する知識の提供や体験できる機会の提供をしていただき、そして、市民の皆様がそこに積極的に参加する、このような広がり「やってみよう」という清須市の食育の「輪・環」になっていくのではないかと考えております。

これからの5年間、様々な食育の活動を通して、清須市に住む皆様が「やってみよう 清須のおいしい物語」に関心をもっていただき、元気に毎日を過ごすことができるよう願っております。

平成26年3月

清須市食育推進会議会長
愛知みずほ大学短期大学部

教授 上原 正子

第 2 次清須市食育推進計画

清須市 市民環境部 産業課

〒452-8569 愛知県清須市須ヶ口 1238 番地
TEL 052-400-2911 FAX 052-400-2963
URL <http://www.city.kiyosu.aichi.jp/>
E-mail : sangyo@city.kiyosu.lg.jp